

府 食 第 249 号
令和 4 年 5 月 10 日

厚生労働大臣
後藤 茂之 殿

食品安全委員会
委員長 山本 茂貴

食品健康影響評価の結果の通知について

令和 3 年 12 月 8 日付け厚生労働省発生食 1208 第 2 号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に意見を求められたアセキノシルに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 23 条第 2 項の規定に基づき通知します。

なお、食品健康影響評価の詳細は別添 1 のとおりです。

また、本件に関して行った国民からの意見・情報の募集において、貴省に関連する意見・情報が別添 2 のとおり寄せられましたので、お伝えします。

記

アセキノシルの許容一日摂取量を 0.022 mg/kg 体重/日、急性参照用量を 0.073 mg/kg 体重と設定する。

農薬評価書

アセキノシル (第4版)

令和4年（2022年）5月
食品安全委員会

目 次

	頁
○ 審議の経緯.....	3
○ 食品安全委員会委員名簿.....	4
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	5
○ 食品安全委員会農薬第二専門調査会専門委員名簿.....	6
○ 要 約.....	7
 I. 評価対象農薬の概要	 8
1. 用途.....	8
2. 有効成分の一般名.....	8
3. 化学名.....	8
4. 分子式.....	8
5. 分子量.....	8
6. 構造式.....	8
7. 開発の経緯.....	8
 II. 安全性に係る試験の概要.....	 10
1. 動物体内運命試験.....	10
(1) ラット	10
(2) 畜産動物	13
2. 植物体内運命試験.....	13
(1) なす	13
(2) りんご	15
(3) オレンジ	15
3. 土壌中運命試験.....	17
(1) 好氣的土壌中運命試験（非滅菌土壌）	17
(2) 好氣的土壌中運命試験（滅菌土壌）	17
(3) 土壌浸透性試験	17
(4) 土壌表面光分解試験	18
(5) 土壌吸着・脱着試験	18
4. 水中運命試験.....	18
(1) 加水分解試験	18
(2) 水中光分解試験	19
5. 土壌残留試験.....	19
6. 作物等残留試験.....	20
(1) 作物残留試験	20
(2) 推定摂取量	20

7. 一般薬理試験.....	20
8. 急性毒性試験.....	22
(1) 急性毒性試験.....	22
(2) 急性神経毒性試験.....	23
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験.....	23
10. 亜急性毒性試験.....	23
(1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）.....	23
(2) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）.....	24
(3) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）.....	25
(4) 28 日間亜急性経皮毒性試験（ラット）.....	25
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験.....	26
(1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）.....	26
(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）.....	26
(3) 18 か月間発がん性試験（マウス）.....	27
12. 生殖発生毒性試験.....	28
(1) 2 世代繁殖試験（ラット）.....	28
(2) 発生毒性試験（ラット）.....	29
(3) 発生毒性試験（ウサギ）.....	29
13. 遺伝毒性試験.....	30
14. その他の試験.....	31
(1) 原体混在物 ADsNQ の毒性確認試験.....	31
III. 食品健康影響評価.....	33
・別紙 1：代謝物/分解物/原体混在物略称.....	41
・別紙 2：検査値等略称.....	42
・別紙 3：作物残留試験成績（国内）.....	43
・別紙 4：作物残留試験成績（海外）.....	52
・別紙 5：推定摂取量.....	54
・参照.....	56

＜審議の経緯＞

－第1版関係－

- 1999年 4月 19日 初回農薬登録
- 2005年 11月 29日 残留農薬基準告示（参照1）
- 2007年 6月 21日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：温州みかん、なす、茶、さんしょう、あずき等）
- 2007年 7月 13日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安第0713005号）、関係書類の接受（参照2～5）
- 2007年 7月 19日 第199回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2007年 11月 26日 第9回農薬専門調査会確認評価第二部会
- 2008年 7月 15日 第41回農薬専門調査会幹事会
- 2008年 7月 31日 第249回食品安全委員会（報告）
- 2008年 7月 31日 から8月29日まで 国民からの意見・情報の募集
- 2008年 9月 8日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2008年 9月 11日 第254回食品安全委員会（報告）
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照6）
- 2010年 2月 18日 残留農薬基準告示（参照7）

－第2版関係－

- 2009年 11月 27日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼〔適用拡大：ピーマン、食用きく、さといも（葉柄）、うめ〕
- 2010年 1月 4日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安0104第1号）、関係書類の接受（参照8～10）
- 2010年 1月 7日 第315回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2010年 6月 17日 第336回食品安全委員会（審議）
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照11）
- 2011年 3月 28日 残留農薬基準告示（参照12）

－第3版関係－

- 2011年 7月 5日 インポートトレランス設定の要請（ホップ）
- 2011年 8月 2日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼〔適用拡大：きく（葉）〕
- 2011年 10月 6日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安1006第10号）

2011 年 10 月 11 日 関係書類の接受（参照 13～16）
 2011 年 10 月 13 日 第 403 回食品安全委員会（要請事項説明）
 2012 年 3 月 29 日 第 425 回食品安全委員会（審議）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 20）
 2013 年 3 月 12 日 残留農薬基準告示（参照 21）

－第 4 版関係－

2019 年 12 月 9 日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び
 基準値設定依頼（適用拡大：未成熟とうもろこし、エンサ
 イ等）
 2021 年 12 月 8 日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価に
 ついて要請（厚生労働省発食 1208 第 2 号）、関係書類の
 接受（参照 22～28）
 2021 年 12 月 14 日 第 842 回食品安全委員会（要請事項説明）
 2022 年 1 月 21 日 第 16 回農薬第二専門調査会
 2022 年 3 月 8 日 第 850 回食品安全委員会（報告）
 2022 年 3 月 9 日 から 4 月 7 日まで 国民からの意見・情報の募集
 2022 年 4 月 27 日 農薬第二専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
 2022 年 5 月 10 日 第 857 回食品安全委員会（報告）
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）

＜食品安全委員会委員名簿＞

(2009 年 6 月 30 日まで)	(2011 年 1 月 6 日まで)	(2012 年 6 月 30 日まで)
見上 彪（委員長）	小泉直子（委員長）	小泉直子（委員長）
小泉直子（委員長代理*）	見上 彪（委員長代理*）	熊谷 進（委員長代理*）
長尾 拓	長尾 拓	長尾 拓
野村一正	野村一正	野村一正
畑江敬子	畑江敬子	畑江敬子
廣瀬雅雄**	廣瀬雅雄	廣瀬雅雄
本間清一	村田容常	村田容常

*：2007 年 2 月 1 日から

*：2009 年 7 月 9 日から

*：2011 年 1 月 13 日から

**：2007 年 4 月 1 日から

(2021 年 7 月 1 日から)

山本茂貴（委員長）
 浅野 哲（委員長代理 第一順位）
 川西 徹（委員長代理 第二順位）

脇 昌子（委員長代理 第三順位）
 香西みどり
 松永和紀
 吉田 充

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

（2008 年 3 月 31 日まで）

鈴木勝士（座長）	佐々木有	根岸友恵
林 真（座長代理*）	代田眞理子****	平塚 明
赤池昭紀	高木篤也	藤本成明
石井康雄	玉井郁巳	細川正清
泉 啓介	田村廣人	松本清司
上路雅子	津田修治	柳井徳磨
臼井健二	津田洋幸	山崎浩史
江馬 眞	出川雅邦	山手丈至
大澤貫寿	長尾哲二	與語靖洋
太田敏博	中澤憲一	吉田 緑
大谷 浩	納屋聖人	若栗 忍
小澤正吾	成瀬一郎***	
小林裕子	西川秋佳**	
三枝順三	布柴達男	

*: 2007 年 4 月 11 日から

** : 2007 年 4 月 25 日から

*** : 2007 年 6 月 30 日まで

**** : 2007 年 7 月 1 日から

（2010 年 3 月 31 日まで）

鈴木勝士（座長）	佐々木有	平塚 明
林 真（座長代理）	代田眞理子	藤本成明
相磯成敏	高木篤也	細川正清
赤池昭紀	玉井郁巳	堀本政夫
石井康雄	田村廣人	松本清司
泉 啓介	津田修治	本間正充
今井田克己	津田洋幸	柳井徳磨
上路雅子	長尾哲二	山崎浩史
臼井健二	中澤憲一*	山手丈至
太田敏博	永田 清	與語靖洋
大谷 浩	納屋聖人	義澤克彦**
小澤正吾	西川秋佳	吉田 緑
川合是彰	布柴達男	若栗 忍

小林裕子
三枝順三***

根岸友恵
根本信雄

* : 2009 年 1 月 19 日まで
** : 2009 年 4 月 10 日から
*** : 2009 年 4 月 28 日から

＜食品安全委員会農薬第二専門調査会専門委員名簿＞

(2022 年 3 月 31 日まで)

浅野 哲* (座長)	篠原厚子
赤池昭紀 (座長**)	清家伸康
平塚 明 (座長代理)	田中徹也
稲見圭子	豊田武士
佐藤順子***	中塚敏夫

野村崇人
藤本成明
森田 健

* : 2021 年 6 月 30 日まで
** : 2021 年 7 月 5 日から
*** : 2021 年 8 月 4 日から

(2022 年 4 月 1 日から)

堀本政夫 (座長)	清家伸康
平塚 明 (座長代理 第一順位)	田中徹也
豊田武士 (座長代理 第二順位)	中塚敏夫
稲見圭子	野村崇人
佐藤順子	藤本成明
篠原厚子	森田 健

＜第 16 回農薬第二専門調査会専門参考人名簿＞

堀本政夫 (元千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科教授)

要 約

ナフトキノン骨格を持つキノン系殺虫剤（殺ダニ剤）であるアセキノシル（CAS No. 57960-19-7）について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。第 4 版の改訂に当たっては、厚生労働省から、作物残留試験（未成熟とうもろこし及びエンサイ）及び急性神経毒性試験（ラット）の成績等が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命（ラット及びヤギ）、植物体内運命（なす、りんご及びオレンジ）、作物残留、亜急性毒性（ラット、マウス及びイヌ）、慢性毒性（イヌ）、慢性毒性/発がん性併合（ラット）、発がん性（マウス）、2 世代繁殖（ラット）、発生毒性（ラット及びウサギ）、遺伝毒性等である。

各種毒性試験結果から、アセキノシル投与による影響は主に血液凝固系に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中のばく露評価対象物質をアセキノシル及び代謝物 AKM-05 と設定した。

各試験の無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の 2.25 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.022 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、アセキノシルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 世代繁殖試験の 7.3 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.073 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

I. 評価対象農薬の概要

1. 用途

殺虫剤（殺ダニ剤）

2. 有効成分の一般名

和名：アセキノシル

英名：acequinocyl（ISO 名）

3. 化学名

IUPAC

和名：3-ドデシル-1,4-ジヒドロ-1,4-ジオキソ-2-ナフチル=アセタート

英名：3-dodecyl-1,4-dihydro-1,4-dioxo-2-naphthyl acetate

CAS（No. 57960-19-7）

和名：2-(アセチルオキシ)-3-ドデシル-1,4-ナフタレンジオン

英名：2-(acetyloxy)-3-dodecyl-1,4-naphthalenedione

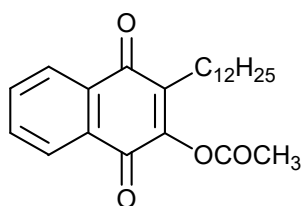
4. 分子式

$C_{24}H_{32}O_4$

5. 分子量

384.5

6. 構造式



7. 開発の経緯

アセキノシルは、米国デュポン社及びアグロカネショウ株式会社によって開発された、ナフトキノン骨格を持つキノン系殺虫剤（殺ダニ剤）である。ハダニ、サビダニ、ホコリダニ類の卵から成虫に対し、接触によりダニの体内に吸収された後、脱アセチル化されて殺ダニ活性を示すと考えられている。作用機構はミトコンドリアの電子伝達系における酵素複合体Ⅲの阻害である。

日本では、1999 年にりんご、なし、かんきつ等のダニ類防除剤として農薬登録され、海外では韓国、台湾、北米、中南米等で農薬登録されている。

第4版では、農薬取締法に基づく農薬登録申請（適用拡大：未成熟とうもろこし、

エンサイ等) がなされている。

II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験〔II. 1～4〕は、アセキノシルのフェニル環の炭素を ^{14}C で均一に標識したもの（以下「[phe- ^{14}C]アセキノシル」という。）及びドデシル基の 1 位炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[dod- ^{14}C]アセキノシル」という。）を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）からアセキノシルの濃度（mg/kg 又は $\mu\text{g/g}$ ）に換算した値として示した。

代謝物/分解物/原体混在物略称及び検査値等略称は、別紙 1 及び 2 に示されている。

1. 動物体内運命試験

（1）ラット

① 吸収

a. 血中濃度推移

SD ラット（一群雌雄各 15 匹）に[phe- ^{14}C]アセキノシルを低用量（10 mg/kg 体重）若しくは高用量（500 mg/kg 体重）単回経口投与、低用量反復経口投与（10 mg/kg 体重、1 日 1 回、14 日間）又は[dod- ^{14}C]アセキノシルを低用量（10 mg/kg 体重）単回経口投与して、血中濃度推移について検討された。

血漿及び全血中薬物動態学的パラメータは表 1 に示されている。

血漿中放射能濃度推移は、低用量群では二相性の減衰を示し、標識部位、性別及び投与回数による差は認められなかった。高用量群では一相性の減衰を示した。

全血中放射能は、いずれの投与群も血漿中より低い濃度推移を示したことから、いずれの標識体も主に血漿中に存在し、血球とは結合しないことが示唆された。

（参照 3、9、23）

表 1 血漿及び全血中薬物動態学的パラメータ

標識体		[phe- ^{14}C]アセキノシル						[dod- ^{14}C]アセキノシル	
投与群		低用量単回		高用量単回		低用量反復		低用量単回	
性別		雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
血漿	$T_{\max}(\text{hr})$	3.0	3.0	24.0	24.0	6.0	2.0	2.0	3.0
	$C_{\max}(\mu\text{g/mL})$	12.9	16.9	51.1	56.1	7.71	9.78	8.25	9.55
	$T_{1/2}(\text{hr})$	α 相		—		4.6	3.3	5.1	5.3
		β 相		20.9		56.8	48.8	42.5	47.8
	$\text{AUC}(\text{hr} \cdot \mu\text{g/mL})$	114	157	2,150	2,310	169	155	99.1	128
全血	$T_{\max}(\text{hr})$	4.0	6.0	24.0	24.0	6.0	2.0	2.0	3.0
	$C_{\max}(\mu\text{g/mL})$	5.55	6.29	31.4	36.7	5.36	7.11	5.36	5.76
	$T_{1/2}(\text{hr})$	α 相		—		4.7	2.8	5.2	5.8
		β 相		19.5		47.2	40.5	64.2	108
	$\text{AUC}(\text{hr} \cdot \mu\text{g/mL})$	67.5	84.0	1,360	1,470	112	108	63.8	82.4

—：二相性を示さなかった。

b. 吸収率

胆汁中排泄試験 [1.(1)④b] における胆汁及び尿中排泄率並びに体内残留放射能の合計から、吸収率は低用量投与群で 27%~48%、高用量投与群で 5%~7% であると推定された。

② 分布

SD ラット（一群雌雄各 15 匹）に[phe-¹⁴C]アセキノシルを低用量若しくは高用量単回経口投与、低用量反復経口投与又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを低用量単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

いずれの投与群においても、ほとんど全ての組織で $T_{\max}$ 付近の放射能濃度が最も高く、その後減衰した。

低用量単回投与群では、 $T_{\max}$ 付近（[phe-¹⁴C]アセキノシル投与群：投与 4 時間後、[dod-¹⁴C]アセキノシル：投与 2 時間後）で最も高かったのは消化管¹（35.6~61.0 µg/g）であり、次いで肝臓（7.3~13.6 µg/g）、リンパ節（4.0~7.2 µg/g）、腎臓（3.0~5.1 µg/g）等で高かった。標識部位及び性別による差はみられなかった。

高用量群では低用量群とほぼ同じ放射能分布を示し、 $T_{\max}$ 付近（投与 24 時間後）で最も高かったのは消化管（209~239 µg/g）であったが、次いで高かったのは脂肪（58.7~76.1 µg/g）、肝臓（48.7~55.4 µg/g）、リンパ節（33.3~42.3 µg/g）であった。

低用量反復投与群では、単回投与群と同様、 $T_{\max}$ 付近（最終投与 3 時間後）の放射能濃度は消化管、肝臓、リンパ節で高かった。単回投与群と比べて明らかな放射能濃度の増加は認められず、蓄積性は示唆されなかった。

また、これらの結果は全身オートラジオグラフとほぼ一致していた。（参照 9、23）

③ 代謝

排泄試験[1.(1)④]で得られた尿、糞、胆汁（それぞれ投与後 48、72 及び 24 時間採取）及び血漿（低用量単回投与群の投与 2~4 時間後採取）を試料として、代謝物同定・定量が実施された。

尿中に未変化のアセキノシルは認められず、AKM-14 及び AKM-15 がそれぞれ 2.4%TAR~6.0%TAR 及び 1.5%TAR~2.7%TAR 検出された。AKM-14 及び AKM-15 を酸化すると赤褐色に変化することが確認された。そのほかに未同定代謝物及び極性物質が認められたが、10%TAR 以上を占める代謝物はなかった。

糞中には未変化のアセキノシルが 0.5%TAR~8.3%TAR 認められ、主要代謝物

¹ 内容物は含まない。

は AKM-05 (12.4%TAR~35.6%TAR) 及び AKM-18 (19.1%TAR~39.6%TAR) であった。また、尿中に認められた AKM-15 も検出され、そのほかに数種類の未同定代謝物もみられたが、いずれも 10%TAR 以下であった。

胆汁中には未変化のアセキノシルが 0.8%TAR 以下認められた。主要代謝物は AKM-05 のグルクロン酸抱合体 (0.8%TAR~8.2%TAR) であり、ほかに AKM-05、AKM-18、AKM-14 及び AKM-15 がそれぞれ 0.2%TAR~4.2%TAR 認められた。10%TAR 以上を占める代謝物は認められなかった。高用量群では、胆汁中放射能排泄率の低下に伴う各代謝物量の低下が認められた。

血漿中に未変化のアセキノシルは認められず、AKM-05、AKM-18、AKM-14 及び AKM-15 のほか、少量の未同定代謝物 4 が認められた。

いずれの試料においても、未同定代謝物を含めた代謝物の生成には、標識部位、投与量及び投与回数による量的及び質的变化は認められなかった。

アセキノシルのラット体内における推定代謝経路は、加水分解により AKM-05 が生成し、その後の酸化により AKM-18 になる経路、AKM-05 のβ酸化を経て AKM-14 又は AKM-15 になる経路及び AKM-05 がグルクロン酸抱合を受ける経路が考えられた。(参照 3、9、23)

④ 排泄

a. 尿及び糞中排泄

SD ラット (一群雌雄各 5 匹) に[phe-¹⁴C]アセキノシルを低用量若しくは高用量単回経口投与、低用量反復経口投与又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを低用量単回経口投与して、排泄試験が実施された。

いずれの投与群においても、主要排泄経路は糞中であつた。低用量群では、投与後 48 時間 (単回投与群) 又は最終投与後 48 時間 (反復投与群) で 80.4%TAR~89.7%TAR が糞中に、11.2%TAR~14.2%TAR が尿中に排泄された。高用量群では排泄速度がやや遅くなり、投与後 72 時間の糞中に 77.8%TAR~89.6%TAR、尿中に 7.3%TAR~8.0%TAR が排泄された。

また、いずれの投与群でも、投与後又は最終投与後 120 時間の糞尿中に 91.6%TAR~104%TAR が排泄され、消化管及びカーカス²中の放射能は極めて少量 (0.01%TAR~0.06%TAR 及び 0.06%TAR~0.18%TAR) であった。反復投与による排泄速度への影響及び蓄積性は認められなかった。(参照 9、23)

b. 胆汁中排泄

胆管カニューレを施した SD ラット (一群雌雄各 5 匹) に、[phe-¹⁴C]アセキノシルを低用量若しくは高用量単回経口投与又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを低用量

² 組織・臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという

単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

低用量群では、両標識体とも投与後 48 時間の糞中に 50.1%TAR～66.4%TAR、胆汁中に 19.7%TAR～33.3%TAR、尿中に 5.2%TAR～8.9%TAR が排泄され、体内残留放射能は 1.7%TAR～6.0%TAR であった。

高用量の [phe-¹⁴C] アセキノシル投与群では、投与後 48 時間の糞中に 94.1%TAR～96.5%TAR、胆汁中に 2.5%TAR～4.6%TAR、尿中に 2.0%TAR～2.1%TAR が排泄され、体内残留放射能は 0.2%TAR 以下であった。(参照 9、23)

⑤ アセキノシル処理なすで生成された極性物質のラットにおける吸収・排泄

[phe-¹⁴C]アセキノシルを 340 g ai/ha の割合で散布した人工栽培のなす（品種：千両）の葉を、処理 14 及び 28 日後に採取し、葉面上の放射能から非極性物質を除いた極性物質試料を SD ラット（雄 3 匹）に経口投与して、吸収・排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の尿中に 19.2%TAR、糞中に 73.6%TAR が排泄され、投与 120 時間後の体内残留放射能は 1%TAR 以下であった。糞尿中に排泄された化合物を分析した結果、大部分は未変化のまま速やかに糞中に排泄され、一部は腸管から吸収されて、未変化のまま、あるいは更に分解されて、投与された物質より極性の高い物質として尿中に排泄されたことが示唆された。（参照 9、23）

（２）畜産動物

ヤギを用いた動物体内運命試験が実施された。ヤギ体内で認められた主な残留物は未変化のアセキノシル及び AKM-05 であった。微量代謝物として AKM-18（肝臓で 1.8%TRR、腎臓で 6.2%TRR）及び AKM-15（肝臓で 9%TRR、腎臓で 9.1%TRR）が認められた。（参照 3）

2. 植物体内運命試験

（１）なす

① 植物体内への移行・分布試験

室内の人工気象制御室で栽培されたなす（品種：千両）に、フロアブル製剤化した [phe-¹⁴C]アセキノシル又は [dod-¹⁴C]アセキノシルを 600 g ai/ha の用量で散布処理して、植物体内への移行・分布試験が実施された。

処理後のなす試料における放射能分布は表 2 に示されている。

処理直後の果実及び葉から 0.12～0.37 及び 14.0～26.6 mg/kg の残留放射能が検出され、ほとんどが表面洗浄液中から回収された。処理 7 及び 14 日後には、表面洗浄液中の放射能は減少し、果皮、果肉及び葉の抽出物及び残渣中放射エネルギーが増加した。

表2 なす試料における放射能分布（%TRR）

処理後 日数	[phe- ¹⁴ C]アセキノシル					[dod- ¹⁴ C]アセキノシル				
	果実			葉		果実			葉	
	表面 洗浄液	果皮 ¹⁾	果肉 ¹⁾	表面 洗浄液	抽出物 +残渣	表面 洗浄液	果皮 ¹⁾	果肉 ¹⁾	表面 洗浄液	抽出物 +残渣
0 日	95.1	4.7	0.5	98.1	1.9	94.3	1.6	4.1	97.9	2.2
7 日	52.3	21.2	26.4	70.3	29.8	49.7	44.6	5.8	88.2	11.9
14 日	58.4	29.3	12.4	67.0	33.0	60.0	35.8	4.6	80.1	19.9

¹⁾：果皮及び果肉の数値は、抽出物と残渣の合算値。

また、処理時にポリエチレン袋で覆い、散布液の付着を防止した果実及び葉では、果肉及び果皮から微量の放射能（果肉、果皮合わせて 0.025 mg/kg 以下）が検出され、植物体内における僅かな移行性が示唆されたが、その量は同時期に処理葉から回収された総放射エネルギーの 0.5%以下であった。

② 根からの吸収・移行試験

ポット栽培のなす（品種：千両）の土壌表面に、[phe-¹⁴C]アセキノシル又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを 600 g ai/ha の用量で処理して、吸収・移行試験が実施された。

処理 14 日後の果皮、果肉及び葉から微量の放射能（それぞれ 0.003～0.032 mg/kg）が検出され、果実及び葉洗浄液からはほとんど放射能が検出されなかった（0.001 mg/kg 未満）。アセキノシルの根部吸収移行性は極めて低いと考えられた。

③ 代謝物同定・定量

室内の人工気象制御室で栽培されたなす（品種：千両）に、フロアブル製剤化した[phe-¹⁴C]アセキノシル又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを 600 g ai/ha 及び 3,000 g ai/ha の割合で散布処理して、代謝物同定・定量試験が実施された。

果実及び葉のいずれの試料においても、大部分は未変化のアセキノシルとして存在していた。代謝物として AKM-05 及び AKM-18 が検出されたが、10%TRR を超えるものはなかった。

果皮抽出物及び葉表面洗浄液からは、極性物質がそれぞれ 2.7%TRR～8.2%TRR 及び 3.1%TRR～10.3%TRR 検出され、フタル酸が含まれていることが確認されたが、その他の成分については構造解明できなかった。未同定代謝物の性質及び含有量を含めて、標識部位による有意な放射能濃度、放射能分布、親化合物の比率、代謝物の種類及び割合の差は認められなかった。また、果皮及び葉の抽出残渣を酵素処理した結果、果実中放射能の 5%～6%、葉抽出残渣の 7%～17%が抽出された。（参照 9、23）

(2) りんご

りんご（品種：ゴールドデンデリシャス）に、フロアブル製剤化した[phe-¹⁴C]アセキノシル又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを 750 g ai/ha の用量で散布処理して、植物体内運命試験が実施された。

処理後のりんご試料における放射能分布は表 3 に示されている。

処理直後の放射能濃度は、果実で 1.30～1.39 mg/kg 及び葉で 53.9～54.1 mg/kg であったが、その後急激に減少し、それぞれ 0.384～0.698 mg/kg（処理 14 日後）及び 4.60～23.7 mg/kg（処理 30 日後）となった。

処理直後では、放射能の大部分（98.0%TRR～98.7%TRR）が果実及び葉の表面洗浄液から回収された。果皮、果肉及び葉内部から回収される放射能の割合は経時的に増加したが、処理 30 日後でも果実及び葉の表面洗浄液から 39.9%TRR～63.2%TRR の放射能が回収され、残留する放射能の多くが果実及び葉の表面に付着していた。

表 3 りんご試料における放射能分布（%TRR）

処理後 日数	[phe- ¹⁴ C]アセキノシル					[dod- ¹⁴ C]アセキノシル				
	果実			葉		果実			葉	
	表面 洗浄液	果皮 ¹⁾	果肉 ¹⁾	表面 洗浄液	抽出物 +残渣	表面 洗浄液	果皮 ¹⁾	果肉 ¹⁾	表面 洗浄液	抽出物 +残渣
0 日	98.7	1.0	0.2	98.5	1.4	98.2	1.3	0.3	98.0	2.0
14 日	56.1	34.7	9.1			73.7	21.2	5.1		
30 日	45.4	44.1	10.5	39.9	60.1	63.2	28.6	8.2	48.9	51.1

／：試料なし。

¹⁾：果皮及び果肉の数値は、抽出物と残渣の合算値。

また、処理時にポリエチレン袋で覆い、散布液の付着を防止した果実及び葉では、処理 30 日後の放射能濃度は 0.014～0.016 mg/kg と極めて低かったが、僅かに果皮、果肉及び葉から検出された。吸収されたアセキノシルには僅かであるが体内移行性があった。これらの果実及び葉における収穫時の総放射エネルギーは処理果実及び葉の 3%以下であった。

果実及び葉のいずれの試料においても、大部分は未変化のアセキノシルとして存在していた。代謝物として AKM-05 及び AKM-18 が検出されたが、10%TRR を超えるものはなかった。果皮では、未変化のアセキノシルの割合は処理 30 日後には低下し、極性物質が相対的に増加した。処理 30 日後の葉では大部分が極性物質であった。極性物質中にはフタル酸及び 2-CBAA が含まれていることが確認された。果皮及び葉の抽出残渣はアルカリで大部分が抽出され、その主要成分はフタル酸であった。（参照 9、23）

(3) オレンジ

オレンジ（品種：ネーブル）に、フロアブル製剤化した[phe-¹⁴C]アセキノシル

を 1,050 g ai/ha の割合で散布処理して、植物体内運命試験が実施された。

処理後のオレンジ試料における放射能分布は表 4 に示されている。

処理直後の放射能濃度は、果実及び葉でそれぞれ 0.633 及び 53.7 mg/kg であったが、収穫時(処理 30 日後)にはそれぞれ 0.228 及び 25.9 mg/kg に減少した。処理直後の放射能は大部分 (97.8%TRR～99.6%TRR) が表面洗浄液から回収され、その後減少した。これに伴い、果皮及び葉中の放射能はほぼ経時的に増加した。特に、抽出残渣中放射能は、処理直後ではほとんど検出されなかったが、収穫時には 26.4%TRR 及び 35.6%TRR に増加した。しかし、果肉抽出残渣では収穫時に 2.7%TRR が検出されたに過ぎなかった。

表 4 オレンジ試料における放射能分布 (%TRR)

処理後 日数	[phe- ¹⁴ C]アセキノシル				
	果実			葉	
	表面 洗浄液	果皮 ¹⁾	果肉 ¹⁾	表面 洗浄液	抽出物 +残渣
0 日(処理直後)	97.8	2.2	<0.03	99.6	0.43
30 日(収穫期)	46.9	50.5	2.7	55.3	44.8

¹⁾：果皮及び果肉の数値は、抽出物と残渣の合算値。

果実では、未変化のアセキノシルが処理直後に 95.1%TRR を占め、収穫時には 41.4%TRR に減少した。いずれも洗浄液中から検出され、果実内からは検出されなかった。洗浄液及び果皮抽出液からは代謝物として AKM-18 及び AKM-05 が同定されたが、いずれも収穫期で 0.6%TRR 未満 (0.001 mg/kg 未満) であった。極性代謝物が洗浄液及び果皮抽出液から合計約 30%TRR 検出されたが、これらは少なくとも未同定の 4 成分から構成されていた。

葉では、未変化のアセキノシルが処理直後に 97.9%TRR を占め、収穫時には 27.7%TRR に減少した。これらは洗浄液から検出され、葉の内部からは検出されなかった。収穫時には、代謝物として AKM-18 及び AKM-05 が同定され、葉でそれぞれ 1.8%TRR 及び 3.3%TRR が検出された。そのほかに、極性代謝物が 19%TRR 検出されたが、これらは未同定 4 成分から構成されていた。

また、処理時にポリエチレン袋で覆い、散布液の付着を防止した果実及び葉では、果実全体から 0.043 mg/kg の放射能が検出された。そのうち 0.016 mg/kg (約 37%) は果皮洗浄液から検出され、処理時に飛散した被験物質が果実に付着した可能性も考えられたが、処理放射能の吸収及び果実への移行性を完全に否定することも出来なかった。(参照 9、23)

以上から、アセキノシルの植物体内における推定代謝経路は、加水分解による AKM-05 の生成と、その後の酸化による AKM-18 の生成又は極性物質を経由した 2-CBAA とフタル酸の生成であると考えられた。(参照 3、9、23)

3. 土壤中運命試験

(1) 好氣的土壤中運命試験（非滅菌土壤）

[phe-¹⁴C]アセキノシル又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを砂壤土及びシルト質壤土（いずれも英国）に 0.5 mg/kg の濃度で添加して、20℃で 180 日間インキュベートする好氣的土壤中運命試験が実施された。

処理直後の抽出放射能は 95.8%TAR～99.3%TAR であったが、その後は経時的に減少し、試験終了時には 12.0%TAR～17.4%TAR になった。一方、揮発性物質が経時的に増加し、試験終了時には 43.9%TAR～57.7%TAR になった。抽出残渣は 30～90 日に最高値（33.9%TAR～56.2%TAR）に達した後、徐々に減少した。土壤中放射能推移に土壤の種類及び標識部位による差は認められなかった。

主要分解物は二酸化炭素であった。次いで AKM-05 及び AKM-18 が処理 2～10 日後に最高値（それぞれ 22.1%TAR～33.8%TAR 及び 4.3%TAR～9.2%TAR）を示した。未変化のアセキノシルは、処理 180 日後には 1.8%TAR～2.3%TAR となった。主要分解経路は、加水分解による AKM-05 の生成、その後の酸化による AKM-18 の生成を経て、腐植質に取り込まれ、更に分解されて二酸化炭素となり大気中に放出される経路と考えられた。

非滅菌土壤における推定半減期は 0.6～1.3 日であった。（参照 9、23）

(2) 好氣的土壤中運命試験（滅菌土壤）

[phe-¹⁴C]アセキノシルをオートクレーブで滅菌した砂壤土(英国)に 0.5 mg/kg の濃度で添加して、20℃で 90 日間インキュベートする好氣的土壤中運命試験が実施された。

抽出放射能は処理 90 日後にも 97.7%TAR 存在し、揮発性物質がほとんど認められなかった。抽出残渣の増加速度も、好氣的土壤中運命試験〔3.(1)〕の非滅菌土壤に比べて著しく遅かった。主要分解物は AKM-05 及び AKM-18 であり、処理 60～90 日後に最高値（それぞれ 20.6%TAR 及び 6.8%TAR）を示した。未変化のアセキノシルは、処理 90 日後に 46.8%TAR 存在した。

滅菌土壤における推定半減期は 89.5 日であった。これは非滅菌土壤と比べて著しく長いことから、アセキノシルは土壤中で主に微生物によって分解されることが示唆された。（参照 9、23）

(3) 土壤浸透性試験

[phe-¹⁴C]アセキノシル又は[dod-¹⁴C]アセキノシルを砂壤土及びシルト質埴壤土（いずれも英国）、砂土及びシルト質砂壤土（いずれもドイツ）の非熟成及び熟成土壤に 500 g ai/ha で処理して、土壤浸透性試験が実施された。

いずれの土壤カラムにおいても、大部分の放射能が土壤カラム最上部から検出された。浸透水中には砂土で 4.0%TAR の放射能が検出されたが、ほかの土壤で

は 1%TAR 以下であった。そのほかに、揮発性成分による放射能の消失が最大 4%TAR 観察された。非熟成土壌及び熟成土壌における放射能の移動性にもほとんど差がみられなかった。土壌カラム上部の土壌における主要分解物は、好氣的土壌中運命試験と同様 AKM-05 及び AKM-18 であった。アセキノシル及び分解物の好氣性土壌における移動性は非常に小さいと考えられた。（参照 9、23）

（４）土壌表面光分解試験

[phe-¹⁴C]アセキノシルを砂壤土（英国）に 500 g ai/ha で処理し、25℃でキセノンアークランプ（光強度：0.41～0.47 W/m²）を連続照射する土壌表面光分解試験が実施された。

未変化のアセキノシルは照射区及び暗所対照区とも速やかに減少し、13 日後にはそれぞれ 13.8%TAR 及び 7.2%TAR になった。アセキノシルの減衰速度、分解物の種類及び生成速度に、光照射の影響はみられなかった。また、主な分解物は AKM-18 及び二酸化炭素で、好氣的土壌中運命試験で検出された生成物と同じであった。（参照 9、23）

（５）土壌吸着・脱着試験

4 種類の土壌（砂壤土及びシルト質埴壤土：英国、砂土：ドイツ、シルト質砂壤土：茨城）を用いた土壌吸着・脱着試験が実施された。なお、本剤は極めて水溶性が低く通常の試験方法が困難なため、[phe-¹⁴C]アセキノシルを用い、平衡期間中に分解された放射能化合物も含めた吸着性及び脱着性について検討された。

アセキノシルは土壌中で速やかに分解されるため、アセキノシル及び分解物を合わせた全放射エネルギーを ¹⁴CO₂ にして測定した。吸着係数 K_a は 678～1,620、有機炭素含量により補正した吸着係数 K_{aoc} は 33,900～123,000 であり、脱着係数 K_d は 785～3,220、有機炭素含量により補正した脱着係数 K_{d oc} は 38,600～198,000 であった。

アセキノシルの土壌吸着性は極めて高く、土壌中での移動性は低いことが示唆された。（参照 9、23）

4. 水中運命試験

（１）加水分解試験

[phe-¹⁴C]アセキノシルを pH 1.2（塩酸）、pH 4（酢酸）、pH 7（リン酸）及び pH 9（ホウ酸）の各滅菌緩衝液に 0.3 µg/L の濃度で添加し、25 又は 37℃（pH 1.2 のみ）の暗所でインキュベートする加水分解試験が実施された。

アセキノシルは水中で容易に加水分解された。酸性条件下では比較的安定であり、pH の上昇と共に分解速度が速くなった。主要分解物は AKM-05 であり、最高で 23.2%TAR～54.7%TAR 検出された。ほかに AKM-18 が検出されたが、この化合物は水中の酸素による AKM-05 の酸化物であると考えられた。そのほかに、

pH の上昇とともに未同定分解物の生成量が増加し、pH 9 では 180 分後に未変化のアセキノシルが 17.3%TAR、AKM-05 が 38.9%TAR、AKM-18 が 10.9%TAR、未同定分解物が 33.1%TAR 生成した。

推定半減期は、pH 1.2 で 19 日、pH 4 で 74 日、pH 7 で 53 時間及び pH 9 で 76 分であった。（参照 9、23）

（２）水中光分解試験

[phe-¹⁴C]アセキノシルを pH 5.0 の滅菌酢酸緩衝液及び pH 7.8 の滅菌河川水（静岡）に 3 µg/L の濃度で添加し、25±1℃でキセノンランプ光（光強度：18.6 W/m²又は 144 W/m²、波長：290～800 nm）を 24 時間照射して、水中光分解試験が実施された。

緩衝液及び河川水ともに、照射区における主要分解物は AKM-05 及び AKM-08 であり、それぞれ最大で 4.4%TAR～11.6%TAR 及び 8.8%TAR～12.9%TAR 認められた。ほかに AKM-A1、AKM-B2 及び AKM-B3 がいずれも 10%TAR 以下で認められた。暗所対照区における主要分解物は AKM-05 であり、最高で緩衝液に 13.8%TAR、河川水に 70.2%TAR 認められた。

アセキノシルは水中で加水分解並びに光分解により極めて急速に AKM-05 に分解されるほか、アセキノシルと AKM-05 のいずれもが主に直接的光分解によりドデシル側鎖 2 位メチレン基に酸化を受け、AKM-08、AKM-A1、AKM-B2、AKM-B3 等の中間体を生成すると考えられた。また、これらの中間体は光に不安定であり、フタル酸、フェノール等を経て、最終的に二酸化炭素にまで光分解されると考えられた。

推定半減期は、緩衝液で 14.0 分及び河川水で 12.0 分であった。（参照 9、23）

5. 土壌残留試験

洪積土・埴壌土（福島）及び火山灰土・軽埴土（茨城）を用い、アセキノシル、分解物 AKM-05 及び AKM-18 を分析対象化合物とした土壌残留試験（ほ場及び容器内）が実施された。

推定半減期は表 5 に示されている。（参照 9、23）

表 5 土壌残留試験成績（推定半減期）

試験	濃度*	土壌	半減期(日)	
			アセキノシル	アセキノシル ＋分解物
ほ場試験	1,050 g ai/ha 2 回施用	洪積土・埴壌土	約 3	約 3
		火山灰土・軽埴土	≦約 2	≦2
容器内試験	1.0 mg/kg	洪積土・埴壌土	≦1	約 3
		火山灰土・軽埴土	≦1	≦2

*：ほ場試験ではフロアブル、容器内試験では純品を使用

6. 作物等残留試験

(1) 作物残留試験

国内において、果物、野菜等を用いてアセキノシル及び代謝物 AKM-05 を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 3 に示されている。

アセキノシル及び代謝物 AKM-05 の最大残留値は、いずれも散布（2 回散布）7 日後に収穫した茶（荒茶）で認められ、アセキノシルは 14.6 mg/kg、代謝物 AKM-05 は 18.9 mg/kg であった。

海外において、ホップを用いてアセキノシル及び代謝物 AKM-05 を分析対象とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 4 に示されている。

アセキノシル及び代謝物 AKM-05 の最大残留値は、いずれも散布 21 日後に収穫したホップで認められ、アセキノシルは 9.7 mg/kg、代謝物 AKM-05 は 2.7 mg/kg であった。（参照 9、10、15、16、23～27）

(2) 推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験の分析値を用いて、アセキノシル及び AKM-05 をばく露評価対象物質とした際に、食品中から摂取される推定摂取量が表 6 に示されている（別紙 5 参照）。

なお、本推定摂取量の算定は、登録又は申請された使用方法からアセキノシル及び AKM-05 が最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

表 6 食品中から摂取されるアセキノシル及び AKM-05 の推定摂取量

	国民平均 (体重：55.1 kg)	小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)	妊婦 (体重：58.5 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)
推定摂取量 (μg/人/日)	408	125	265	532

7. 一般薬理試験

マウス、イヌ、ラット、モルモット及びウサギを用いた一般薬理試験が実施された。

結果は表 7 に示されている。（参照 9、23）

表 7 一般薬理試験概要

試験の種類		動物種	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
一般症状 (Irwin 法)		ICR マウス	雄 4	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
呼吸循環器系		ビーグル犬	雌 3	2,000 (十二指腸内)	2,000	—	影響なし
抗痙攣作用 (メトラゾール)		ICR マウス	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
体温		Wistar ラット	雄 8	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
ヘキシソ バルビタール 睡眠		ICR マウス	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
協調歩行 (加速回転棒法)		ICR マウス	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
局所麻酔作用		Hartley モルモット	雄 5	0、0.02、 0.06、0.2% (0.1 mL、皮内)	0.2%	—	影響なし
尿・電解質		Wistar ラット	雄 8	0、200、600、 2,000 (経口)	—	200	尿量減少、Na ⁺ 、 K ⁺ 、Cl ⁻ 及び蛋 白排泄量低下
腸管炭末輸送能		ICR マウス	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
自律 神経 系	摘出回腸	Hartley モルモット	雄 15	10 ⁻⁷ 、10 ⁻⁶ 、10 ⁻⁵ M (<i>in vitro</i>)	10 ⁻⁵ M	—	影響なし
	摘出子宮	Wistar ラット	雌 6	10 ⁻⁷ 、10 ⁻⁶ 、10 ⁻⁵ M (<i>in vitro</i>)	10 ⁻⁵ M	—	影響なし
血液	溶血性	ウサギ (系統不明)	雄 3	0、0.03、0.1、 0.3、1.0 mg/mL (<i>in vitro</i>)	0.03 mg/mL	0.1 mg/mL	溶血作用あり
	血液凝固	Wistar ラット	雄 10	0、200、600、 2,000 (経口)	—	200	PT、APTT 及び 全血凝固時間延 長、フィブリノ ーゲン増加
	血液凝固に 対する ビタミン K	SD ラット	雄 3	[アセキノシル] 0、600 (経口)	—	—	ビタミン K 静脈 内投与により凝 固時間が正常に

試験の種類	動物種	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
の影響			[ビタミン K] 0、2.5、5、10、 20 (静脈内)			回復

注) 溶媒として経口及び十二指腸内投与では 1%MC、皮内投与及び *in vitro* の試験では DMSO、静脈内投与では生理食塩水が用いられた。

ー：最小作用量又は最大無作用量は設定できなかった。

8. 急性毒性試験

(1) 急性毒性試験

アセキノシル（原体）、代謝物及び原体混在物のラット及びマウスを用いた急性毒性試験が実施された。

結果は表 8 及び表 9 に示されている。（参照 3、9、23）

表 8 急性毒性試験結果概要（原体）

投与 経路	動物種 性別・匹数	LD ₅₀ (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口 ^a	SD ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	5,000 mg/kg 体重：全例に水様便(投与 1～2 時間) 死亡例なし
経口 ^a	ICR マウス 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	5,000 mg/kg 体重：全例に水様便(投与 30 分～2 時間) 死亡例なし
経皮 ^b	SD ラット 雌雄各 5 匹	>2,000	>2,000	症状及び死亡例なし
吸入 ^c	SD ラット 雌雄各 5 匹	LC ₅₀ (mg/L)		ばく露中に不整呼吸、閉眼、鼻部湿潤、脊椎後弯及び喘ぎ動作、ばく露終了後には不整呼吸、鼻口部の褐色の汚れ、鼻部周辺の湿潤、0.84 mg/L 群では喘ぎ動作、腹部被毛湿潤等(全てばく露 3 日後には消失) 0.69 mg/L 群雌 1 例、0.84 mg/L 群雄 1 例が死亡
		>0.84	>0.84	

a：溶媒として 0.5%MC が用いられた。

b：24 時間閉塞貼付

c：4 時間ばく露（エアロゾル）

表 9 急性毒性試験結果概要（代謝物及び原体混在物）

被験物質	投与経路	動物種 性別・引数	LD ₅₀ (mg/kg 体重)		観察された症状
			雄	雌	
代謝物 AKM-05	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	下痢、排泄物付着による被毛の汚れ(投与 3～6 時間後) 死亡例なし
	経皮	SD ラット 雌雄各 5 匹	>2,000	>2,000	症状及び死亡例なし
代謝物 AKM-18	経口	ICR マウス 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	眼瞼下垂、水様便、活動性低下 死亡例なし
原体混在物 ADsNQ	経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	2,580	2,280	下痢及び自発運動低下（後に消失）、被毛の汚れ、2,960 mg/kg 体重以上で出血による皮膚の紫斑 1,750 mg/kg 体重以上で急死、切迫と殺（自発運動低下、蒼白、麻痺による歩行異常、腹臥位等の重篤な症状を示したため）
	経皮	SD ラット 雌雄各 5 匹	>2,000	>2,000	症状及び死亡例なし

注) 溶媒として経口投与には、AKM-05 及び ADsNQ ではコーン油、AKM-18 では 0.5%MC が用いられた。

（２）急性神経毒性試験

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた単回強制経口投与（原体：0、125、500 及び 2,000 mg/kg 体重、溶媒：1%MC 水溶液）による急性神経毒性試験が実施された。

本試験において、いずれの投与群でも検体投与による毒性影響は認められなかったことから、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 2,000 mg/kg 体重であると考えられた。急性神経毒性は認められなかった。（参照 23、28）

9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

日本白色種ウサギを用いた眼刺激性試験及び皮膚刺激性試験が実施された。眼及び皮膚に対してごく軽度の刺激性が認められた。

Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximization 法及び Buehler 法) が実施された。Maximization 法では軽度な陽性、Buehler 法では陰性であった。（参照 9、23）

10. 亜急性毒性試験

（１）90 日間亜急性毒性試験（ラット）

Fischer ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌投与（原体：0、100、400、

1,600 及び 3,200 ppm：平均検体摂取量は表 10 参照）による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 10 90 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	400 ppm	1,600 ppm	3,200 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	7.57	30.4	120	253 ^a
	雌	8.27	32.2	129	286 ^a

^a：死亡時までの平均検体摂取量

各投与群で認められた毒性所見は表 11 に示されている。なお、3,200 ppm 投与群では、雌雄全例が全身性の出血性変化により死亡・切迫と殺されたため、同群では血液・生化学的検査は実施されていない。

400 ppm 以上投与群の雌雄全例で尿の黄褐色化が認められたが、検体の代謝物に起因する着色と考えられた。

本試験において、1,600 ppm 投与群の雌雄で APTT 延長等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 400 ppm（雄：30.4 mg/kg 体重/日、雌：32.2 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 3、4、9、23）

表 11 90 日間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
3,200 ppm	・死亡(2 例、投与 1 週)又は切迫と殺(9 例、投与 1～2 週) [赤色尿、消瘦、眼球周囲や四肢の腫張、体温低下、鼻出血、摂餌量減少及び食餌効率低下、筋肉及び多臓器の出血、眼球出血(2 例、投与 1 週)、造血亢進(骨髓及び脾)、脾濾胞萎縮、胸腺萎縮、肝単細胞壊死等]	・死亡(3 例、投与 1～2 週)又は切迫と殺(7 例、投与 1～3 週) [赤色尿、消瘦、眼球周囲や四肢の腫張、体温低下、鼻出血、摂餌量減少及び食餌効率低下、眼球出血(1 例、投与 2 週)、筋肉及び多臓器の出血、造血亢進(骨髓及び脾)、脾濾胞萎縮、胸腺萎縮、肝単細胞壊死等]
1,600 ppm	・WBC 増加(Neu 減少、Lym 増加) ・PLT 増加 ・PT 及び APTT 延長 ・Fib 減少 ・FFA 増加	・眼球腫大(2 例、投与 13 週)[§] ・APTT 延長 ・眼球出血(1 例)[§] ・網膜萎縮(1 例)[§]
400 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

[]：死亡例又は切迫と殺例で認められた所見

[§]：統計検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

（2）90 日間亜急性毒性試験（マウス）

マウス（系統及び匹数不明）を用いた混餌投与（原体：0、100、500 及び 1000 ppm）による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

本試験において、500 ppm 以上投与群で肝細胞空胞化が認められたことから、

無毒性量は 100 ppm（雄：16 mg/kg 体重/日、雌：21 mg/kg 体重/日）であると
考えられた。（参照 3、4）

（３）90 日間亜急性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いたカプセル経口投与（原体：0、40、160、
640 及び 1,000 mg/kg 体重/日）による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 12 に示されている。なお、1,000 mg/kg
体重/日投与群では、雌雄全例が切迫と殺されたため、同群では血液・生化学的検
査は実施されていない。

全投与群において着色尿、着色便及び被毛の着色が認められたが、検体の代謝
物に起因する着色と考えられた。

本試験において、160 mg/kg 体重/日以上投与群の雌雄で体重増加抑制等が認
められたことから、無毒性量は雌雄とも 40 mg/kg 体重/日であると考えられた。
（参照 3、4、23）

表 12 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
1,000 mg/kg 体重/日	・切迫と殺(全例、投与 2～3 週) [下痢、嘔吐(全例、投与 1～3 週)、 体重及び摂餌量の顕著な減少、 骨髄の細胞密度減少、消化管う っ血]	・切迫と殺(全例、投与 3 週) [下痢、嘔吐(全例、投与 1～2 週)、 体重及び摂餌量の顕著な減少、 骨髄の細胞密度減少、消化管う っ血]
640 mg/kg 体重/日	・体重減少(投与 1 週) ・摂餌量減少(投与 1 週以降) ・T.Chol 及び PL 減少 ・TG 増加 ・尿量減少、蛋白排泄量増加	・切迫と殺(2 例、投与 3 及び 4 週) [下痢、嘔吐(投与 1、3 及び 4 週)、 体重及び摂餌量の顕著な減少、 骨髄の細胞密度減少、消化管う っ血] ・体重減少(投与 1 週) ・摂餌量減少(投与 1 週以降) ・WBC 及び Lym 増加 ・T.Chol 及び PL 減少 ・TP、Alb 及び Glob 減少 ・TG 増加 ・尿量減少、蛋白排泄量増加
160 mg/kg 体重/日 以上	・体重増加抑制(0～13 週累積) ^a	・体重増加抑制(0～13 週累積) ^{§a} ・PLT 増加(投与 8 週)
40 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし

[]：切迫と殺例で認められた所見

§：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と考えられた。

^a：640 mg/kg 体重/日投与群では投与 2 週以降に認められた。

（４）28 日間亜急性経皮毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた経皮投与（原体：0、40、200 及び 1,000

mg/kg 体重/日) による 28 日間亜急性経皮毒性試験が実施された。

本試験において、1,000 mg/kg 体重/日投与群で血液凝固因子への影響が認められたことから、無毒性量は 200 mg/kg 体重/日であると考えられた。皮膚への影響は認められなかった。(参照 3、4、9、23)

1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

(1) 1 年間慢性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各 4 匹) を用いたカプセル経口投与 (原体 : 0、5、20、80 及び 320 mg/kg 体重/日) による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 13 に示されている。

80 mg/kg 体重以上投与群の雌雄で着色便及び 20 mg/kg 体重/日以上投与群の雌雄で尿の着色が認められたが、検体の代謝物による着色と考えられた。

本試験において、20 mg/kg 体重/日以上投与群の雄及び 80 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で PLT 増加等が認められたことから、無毒性量は雄で 5 mg/kg 体重/日、雌で 20 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 9、23)

表 13 1 年間慢性毒性試験 (イヌ) で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
320 mg/kg 体重/日	・切迫と殺(1 例、投与 6 週)[極度の食欲不振及び体重減少] ・TP、Alb 及び Glob 減少 ・TG 増加	・切迫と殺(1 例、投与 22 週)[極度の食欲不振及び体重減少] ・TP、Alb [§] 及び Glob 減少 ・TG 増加
80 mg/kg 体重/日以上	・甲状腺絶対及び比重量 ³ 減少	・網状赤血球数増加 ・PLT 増加 [§] ・WBC 及び Neu 増加 ・甲状腺絶対及び比重量減少 [§]
20 mg/kg 体重/日以上	・PLT 増加 [§]	20 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし
5 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	

[] : 切迫と殺例で認められた所見

[§] : 統計学的有意差はないが、検体投与の影響と考えられた。

(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット)

Fischer ラット (一群雌雄各 80 匹) を用いた混餌投与 (原体 : 0、50、200、800 及び 1,600 ppm : 平均検体摂取量は表 14 参照) による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

³ 体重比重量のことを比重量という (以下同じ。) 。

表 14 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	200 ppm	800 ppm	1,600 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.25	9.02	36.4	74.0
	雌	2.92	11.6	46.2	93.6

各投与群で認められた毒性所見は表 15 に示されている。

800 ppm 以上投与群の雌雄で黄褐色～赤褐色尿が認められたが、検体の代謝物に起因する着色と考えられた。200 ppm 以上投与群の雄で認められた眼球腫大は眼球内出血に起因すると考えられ、例数は少ないが検体投与の影響と考えられた。

検体投与に関連した腫瘍性病変の発生頻度増加及び早期化は認められなかった。

本試験において、200 ppm 以上投与群の雄で眼球腫大、800 ppm 以上投与群の雌で脾うっ血が認められたことから、無毒性量は雄で 50 ppm (2.25 mg/kg 体重/日)、雌で 200 ppm (雌：11.6 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発がん性は認められなかった。（参照 3、4、9、23）

表 15 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）で認められた毒性所見
(非腫瘍性病変)

投与群	雄	雌
1,600 ppm	・体重増加抑制(投与 33～101 週)、食餌効率低下(投与 0～52 週累積) ・APTT 延長(投与 26、52 及び 78 週)、PLT 増加(投与 52 週) ・Cre 増加、TG 減少	・体重増加抑制(投与 17～22 週、投与 29～44 週) ・WBC 増加 ・ナトリウム減少
800 ppm 以上	・PT 延長(投与 26 週)	・脾うっ血 [§]
200 ppm 以上	・眼球腫大(投与 4 週以降) ^{§ §}	200 ppm 以下 毒性所見なし
50 ppm	毒性所見なし	

[§]：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と考えられた。

^{§ §}：統計検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

(3) 18 か月間発がん性試験（マウス）

ICR マウス（一群雌雄各 70 匹）を用いた混餌投与（原体：0、20、50、150 及び 500 ppm：平均検体摂取量は表 16 参照）による 18 か月間発がん性試験が実施された。

表 16 18 か月間発がん性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		20 ppm	50 ppm	150 ppm	500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.7	7.0	20.3	66.0
	雌	3.5	8.7	26.3	86.0

各投与群で認められた毒性所見は表 17 に示されている。

500 ppm 投与群の雌雄で、代謝物に起因すると思われる尿の黄褐色～オレンジ色化が認められた。また、肝マクロファージに認められた色素沈着について、対照群及び 500 ppm 投与群の肝臓における特殊染色の結果、沈着物質はリポフスチン複合体である可能性が示唆された。また、各投与群の肝臓について PCNA 染色を実施した結果、雌雄ともに用量相関的な PCNA 陽性細胞発現率の増加が認められ、肝細胞の増殖活性亢進が示唆された。

検体投与による腫瘍性病変の発現率に変化は認められず、特異的な腫瘍の発現も認められなかった。

本試験において、50 ppm 以上投与群の雌雄で肝マクロファージ褐色色素沈着等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 20 ppm (雄: 2.7 mg/kg 体重/日、雌: 3.5 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 3、4、9、23)

表 17 18 か月間発がん性試験 (マウス) で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
500 ppm	・ TP 及び Glob 減少 ・ 肝炎症細胞巣	・ AST 増加 ・ 肝絶対重量増加
150 ppm 以上	・ 肝及び腎比重量増加 ・ 腎糸球体アミロイド変性	・ ALT 増加 ・ 肝比重量増加 ・ 肝炎症細胞巣、門脈周囲脂肪化
50 ppm 以上	・ ALP、ALT 及び AST 増加 ・ 肝マクロファージ褐色色素沈着	・ 肝マクロファージ褐色色素沈着
20 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

1 2. 生殖発生毒性試験

(1) 2 世代繁殖試験 (ラット)

SD ラット (一群雌雄各 25 匹) を用いた混餌投与 (原体: 0、100、800 及び 1,500 ppm: 平均検体摂取量は表 18 参照) による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 18 2 世代繁殖試験 (ラット) の平均検体摂取量

投与群			100 ppm	800 pm	1,500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	7.3	58.9	111
		雌	8.7	69.2	134
	F ₁ 世代	雄	8.2	65.5	124
		雌	8.9	70.4	136

親動物では、800 ppm 以上投与群の F₁ 世代雄で出血が、1,500 ppm 投与群の F₁ 世代雄で腫脹及び P 世代雌で脾絶対重量の軽度な増加が認められた。

児動物では、800 ppm 以上投与群において、F₁ 及び F₂ 世代で離乳直後に出血、

腫脹及び死亡が認められた。また、F₂世代で 1,500 ppm 投与群の包皮分離、精巣下降及び膻開口遅延が、800 ppm 以上投与群で開眼遅延が認められ、発育遅延が示唆された。

本試験における無毒性量は、親動物の雄で 100 ppm (P 雄 : 7.3 mg/kg 体重/日、F₁ 雄 : 8.2 mg/kg 体重/日)、雌で 800 ppm (P 雌 : 69.2 mg/kg 体重/日、F₁ 雌 : 70.4 mg/kg 体重/日)、児動物で 100 ppm (P 雄 : 7.3 mg/kg 体重/日、P 雌 : 8.7 mg/kg 体重/日、F₁ 雄 : 8.2 mg/kg 体重/日、F₁ 雌 : 8.9 mg/kg 体重/日) であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。(参照 3、4、9、23)

(2) 発生毒性試験 (ラット)

SD ラット (一群雌 25 匹) の妊娠 7~17 日に強制経口投与 (原体 : 0、50、150、500 及び 750 mg/kg 体重/日、溶媒 : 1%MC) して、発生毒性試験が実施された。750 mg/kg 体重/日投与群においては、著しい母動物毒性が認められたことから妊娠 10~13 日までで投与が中止された。

母動物では、750 mg/kg 体重/日投与群の 4 例 (妊娠 13~17 日) 及び 500 mg/kg 体重/日投与群の 1 例 (妊娠 17 日) で体表及び眼の褪色、立毛、不整呼吸、膻赤色分泌物 (出血) 等の所見が認められたことから切迫と殺された。これらの動物では、剖検で子宮内出血、消化管内容物の血液混在、血液の希薄化及び淡色化等の所見が認められたが、子宮内には生存胚が認められた。750 mg/kg 体重/日投与群の生存例では、妊娠子宮重量減少、着床後胚死亡増加及び生存胎児数減少が認められた。その他の投与群では、検体投与の影響は認められなかった。

胎児では、750 mg/kg 体重/日投与群において、母動物に対する毒性に起因すると思われる骨格変異の発生頻度増加が認められた。

本試験における無毒性量は、母動物で 150 mg/kg 体重/日、胎児で 500 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 3、4、9、23)

(3) 発生毒性試験 (ウサギ)

NZW ウサギ (一群雌 18 例) の妊娠 6~18 日に強制経口投与 (原体 : 0、30、60 及び 120 mg/kg 体重/日、溶媒 : 1%MC) して、発生毒性試験が実施された。

母動物では、120 mg/kg 体重/日投与群の 5 例で著しい体重減少及び摂餌量減少が認められ、そのうち 4 例ではトレイ上に赤色液体排出も認められたことから、妊娠 15~20 日に切迫と殺された。これらの動物では、剖検で全例に子宮内出血が認められた。同群の生存動物では一過性の摂餌量減少、3 例で羊水の褐色化が認められた。

胎児では、120 mg/kg 体重/日投与群で切迫と殺した母動物 3 例で全胚吸収、1 例で多数の吸収胚が認められた。また、同投与群で過剰肋骨の発生頻度に軽度な増加 (43.8%) がみられたが、背景データ [12.6%~59.3% (1987~1991 年)] の範囲内であり、検体投与の影響とは考えられなかった。

本試験の無毒性量は、母動物及び胎児で 60 mg/kg 体重/日であると考えられた。
催奇形性は認められなかった。（参照 3、4、9、23）

1 3. 遺伝毒性試験

アセキノシル（原体）、代謝物及び原体混在物の細菌を用いた DNA 修復試験及び復帰突然変異試験、チャイニーズハムスター肺由来培養細胞（CHL）を用いた染色体異常試験並びにマウスを用いた小核試験が実施された。

結果は表 19 及び表 20 に示されている。

アセキノシル原体を用いた試験の結果は全て陰性であった。

代謝物 AKM-05 のチャイニーズハムスター肺由来培養細胞（CHL）を用いた染色体異常試験において、代謝活性化系存在下で染色体構造異常発現率の軽微な増加が認められたが、マウス骨髓細胞を用いた *in vivo* 小核試験では陰性であり、ラット及びマウスの試験で発がん性も認められなかったことも考慮すると、生体にとって問題となるような遺伝毒性はないと考えられた。（参照 3、4、9、23）

表 19 遺伝毒性試験概要（原体）

試験	対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	DNA 修復試験 <i>Bacillus subtilis</i> (H17、M45 株)	34.4～1,110 µg/ディスク (-S9) 17.2～550 µg/ディスク (+S9)	陰性
	復帰突然変異試験 <i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	< <i>S. typhimurium</i> > 9.77～625 µg/プレート (-S9) 19.5～2,500 µg/プレート (+S9) < <i>E. coli</i> > 156～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性 ¹⁾
	染色体異常試験 チャイニーズハムスター 肺由来培養細胞(CHL)	150～1,200 µg/mL (-S9、24 時間及び 48 時間) 481～3,850 µg/mL (+S9、6 時間)	陰性
<i>in vivo</i>	小核試験 ICR マウス（骨髓細胞） （一群雌雄各 5 匹）	0、1,250、2,500、5,000 mg/kg 体重 (1 回経口投与)	陰性

注) +/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下。

¹⁾： *S. typhimurium* では、156 µg/プレート以上 (-S9) 及び 625 µg/プレート以上 (+S9) で沈殿析出、
E. coli では 156 µg/プレート (-S9) の 1 回目を除き全ての濃度で沈殿析出。

表 20 遺伝毒性試験概要（代謝物及び原体混在物）

被験物質	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
代謝物 AKM-05	復帰突然 変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	156～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性 ¹⁾
	染色体 異常試験	チャイニーズハムスター 肺由来培養細胞(CHL)	8.98～71.9 µg/mL (-S9、24 時間) 4.49～35.9 µg/mL (-S9、48 時間) 575～2,300 µg/mL (-S9、6 時間) 575～2,300 µg/mL (+S9、6 時間)	陽性
	小核試験 (<i>in vivo</i>)	DBF ₁ マウス骨髓細胞 (一群雄 5 匹)	0、2,000 mg/kg 体重 (2 回経口投与)	陰性
代謝物 AKM-18	復帰突然 変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	< <i>S. typhimurium</i> > 3.13～100 µg/プレート (-S9) 15.6～500 µg/プレート (+S9) < <i>E. coli</i> > 313～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	染色体 異常試験	チャイニーズハムスター 肺由来培養細胞(CHL)	15～60 µg/mL (-S9、6 時間、24 時間及び 48 時間) 15～60 µg/mL (+S9、6 時間)	陰性
原体混在 物 ADsNQ	復帰突然 変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	< <i>S. typhimurium</i> > TA100、TA1535 株 2.44～313 µg/プレート (-S9) 39.1～5,000 µg/プレート (+S9) TA98 株 9.77～1,250 µg/プレート (-S9) 39.1～5,000 µg/プレート (+S9) TA1537 株 39.1～5,000 µg/プレート (-S9) 2.44～156 µg/プレート (+S9) < <i>E. coli</i> > 156～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性 ²⁾
	染色体 異常試験	チャイニーズハムスター 肺由来培養細胞(CHL)	75.0～600 µg/mL (-S9、24 時間) 25.0～200 µg/mL (-S9、48 時間) 300～4,000 µg/mL (+S9、6 時間)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下。

¹⁾ : 全ての濃度で沈殿析出。

²⁾ : +/-S9 の全ての菌株において 39.1 µg/プレート以上で沈殿析出。

14. その他の試験

(1) 原体混在物 ADsNQ の毒性確認試験

ラットにおいて、90 日間亜急性毒性試験 [10. (1)] では高用量群で出血が認められたが、急性毒性試験 [8.] では認められなかった。しかし、アセキノシル原体中の主要混在物である ADsNQ は、急性毒性試験 [8.] でラットに出血を誘発した。アセキノシル原体の連続投与で認められた出血に対する ADsNQ の

関与について検討するために、Fischer ラット（一群雄 6 匹）に 7 日間混餌投与（アセキノシル原体：2,500 ppm、ADsNQ：25 及び 250 ppm）し、検討試験が実施された。

その結果、アセキノシル投与群では PT 及び APTT の延長傾向が認められたが、ADsNQ 投与群では PT 及び APTT の変化が認められなかった。出血性変化はいずれの投与群でも認められなかった。

ラットを用いた 90 日間亜急性毒性試験 [10. (1)] では、3,200 及び 1,600 ppm 投与群の投与 1 週には出血を示唆する所見が観察された。この試験では純度 96.5% のアセキノシル原体が使用された。アセキノシル原体中には通常 1% 以下の ADsNQ が含有されるため、本試験で設定した 250 ppm 投与群の ADsNQ は、ラットの亜急性毒性試験の最高用量群（3,200 ppm）で投与された ADsNQ 濃度よりも高い用量であった。

したがって、原体中に共存する量に相当する ADsNQ の単独反復投与では、ラットに出血性変化を誘起しないと考えられた。（参照 9、23）

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「アセキノシル」の食品健康影響評価を実施した。第4版の改訂に当たっては、厚生労働省から、作物残留試験（未成熟とうもろこし及びエンサイ）及び急性神経毒性試験（ラット）の成績等が新たに提出された。

動物体内運命試験の結果、吸収率は低用量投与群で27%～48%、高用量投与群で5%～7%であると推定された。吸収されたアセキノシルは消化管、肝臓、リンパ節、腎臓に比較的高く分布したが、蓄積性は認められなかった。主に糞中に排泄され、未変化のアセキノシルのほか、主要代謝物としてAKM-05及びAKM-18が認められた。尿中の主要代謝物はAKM-14及びAKM-15であり、これらは酸化すると赤褐色に変化した。

植物体内運命試験の結果、アセキノシルの植物体への吸収及び果実への移行性は低く、また大部分が未変化のアセキノシルとして存在していた。主要代謝物はAKM-05及びAKM-18であったが、いずれも10%TRR以下であった。

アセキノシル及び代謝物AKM-05を分析対象化合物とした作物残留試験の結果、最大残留値は、国内ではいずれも茶（荒茶）で認められ、アセキノシルは14.6mg/kg、代謝物AKM-05は18.9 mg/kg、海外ではいずれもホップで認められ、アセキノシルは9.7 mg/kg、代謝物AKM-05は2.7 mg/kgであった。

各種毒性試験結果から、アセキノシル投与による影響は主に血液凝固系に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体にとって問題となるような遺伝毒性は認められなかった。

植物体内運命試験の結果、10%TRRを超える代謝物は認められなかったが、代謝物AKM-05は血液凝固に対する影響の原因と思われるナフトキノン骨格を有しており、親化合物同様の毒性を示す⁴と考えられることから、農産物中のばく露評価対象物質をアセキノシル及び代謝物AKM-05と設定した。

各試験における無毒性量等は表21に、単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等は表22に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の2.25 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した0.022 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、アセキノシルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた2世代繁殖試験の7.3 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した0.073 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

⁴ EPAにおいて、代謝物AKM-05は植物体内運命試験で10%TRRを超えなかったものの、ナフトキノン骨格を有していることから、血液凝固に影響するとして、農産物中のばく露評価対象物質とされている。（参照3）

ADI	0.022 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.25 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	0.073 mg/kg 体重
(ARfD 設定根拠資料)	繁殖試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	7.3 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

< 参考 >

< EFSA (2013) >

ADI	0.023 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.3 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	0.08 mg/kg 体重
(ARfD 設定根拠資料)	血液凝固作用に対する作用機序試験
(動物種)	ラット
(期間)	単回
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	8 mg/kg 体重
(安全係数)	100

< EPA (2021) >

cRfD	0.027 mg/kg 体重/日
------	------------------

(cRfD 設定根拠資料)	発がん性試験
(動物種)	マウス
(期間)	18 か月
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.7 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100

aRfD	0.073 mg/kg 体重
(aRfD 設定根拠資料)	繁殖試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	7.3 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<APVMA (2020) >

ADI	0.023 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.3 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	0.08 mg/kg 体重
(ARfD 設定根拠資料)	血液凝固作用に対する作用機序試験
(動物種)	ラット
(期間)	単回
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	8 mg/kg 体重
(安全係数)	100

<HC (2007) >

ADI	0.023 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間

(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.3 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	設定の必要なし
------	---------

(参照 29、30、31、32)

表 21 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			EPA	食品安全委員会	農薬抄録 (参考)
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験	0、100、400、 1,600、3,200 ppm	雄：30.4 雌：32.2	雄：30.4 雌：32.2	雄：30.4 雌：32.2
		雄：0、7.57、30.4、 120、253 ²⁾ 雌：0、8.27、32.2、 129、286 ²⁾	雌雄：APTT 延長等	雌雄：APTT 延長等	雌雄：APTT 延長等
	2 年間 慢性毒性 /発がん性 併合試験	0、50、200、800、 1,600 ppm	雄：2.25 雌：46.2	雄：2.25 雌：11.6	雄：9.02 雌：11.6
		雄：0、2.25、9.02、 36.4、74.0 雌：0、2.92、11.6、 46.2、93.6	雌雄：眼球腫大(血液 凝固障害) (発がん性は認めら れない)	雄：眼球腫大 雌：脾うつ血 (発がん性は認めら れない)	雄：PT 延長 雌：脾うつ血 (発がん性は認めら れない)
	2 世代 繁殖試験	0、100、800、 1,500 ppm P 雄：0、7.3、58.9、 111 P 雌：0、8.7、69.2、 134 F ₁ 雄：0、8.2、65.5、 124 F ₁ 雌：0、8.9、70.4、 136	親動物 雄：111 雌：134 児動物 雄：7.3 雌：8.7 親動物：毒性所見な し 児動物：出血、腫脹、 死亡率増加等 (繁殖能に対する影 響は認められない)	親動物 P 雄：7.3 F ₁ 雄：8.2 P 雌：69.2 F ₁ 雌：70.4 児動物 P 雄：7.3 F ₁ 雄：8.2 P 雌：8.7 F ₁ 雌：8.9 親動物：雄で出血、 雌で脾絶対重量 増加 児動物：出血、腫脹、 死亡等 (繁殖能に対する影 響は認められない)	親動物 P 雄：58.9 F ₁ 雄：65.5 P 雌：69.2 F ₁ 雌：70.4 児動物 P 雄：7.3 F ₁ 雄：8.2 P 雌：8.7 F ₁ 雌：8.9 親動物：脾絶対重量 増加等 児動物：出血、腫脹、 死亡等 (繁殖能に対する影 響は認められない)
	発生毒性 試験	0、50、150、500、 750	母動物：150 胎児：500 母動物：内出血徴候 等 胎児：吸収胚増加	母動物：150 胎児：500 母動物：膺赤色分泌 物(出血)等 胎児：骨格変異の発 生頻度増加 (催奇形性は認めら れない)	母動物：150 胎児：500 母動物：着床後胚死 亡増加等 胎児：骨格変異の発 生頻度増加 (催奇形性は認めら れない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			EPA	食品安全委員会	農薬抄録 (参考)
マウス	90 日間 亜急性 毒性試験	0、100、500、1,000 ppm	雄：16 雌：21	雄：16 雌：21	
		雄：0、16、81、151 雌：0、21、100、231	雌雄：肝細胞空胞化	雌雄：肝細胞空胞化	
	18 か月間 発がん性 試験	0、20、50、150、500 ppm	雄：2.7 雌：3.5	雄：2.7 雌：3.5	雄：2.7 雌：3.5
		雄：0、2.7、7.0、 20.3、66.0 雌：0、3.5、8.7、 26.3、86.0	雌雄：肝細胞の褐色 色素沈着及び血 管周囲の炎症性 肝細胞等 (発がん性は認めら れない)	雌雄：肝マクロファ ージ褐色色素沈 着等 (発がん性は認めら れない)	雌雄：肝マクロファ ージ色素沈着等 (発がん性は認めら れない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、30、60、120	母動物及び胎児：60 母動物：切迫と殺に 至るような体重 減少等 胎児：完全吸収胚増 加	母動物及び胎児：60 母動物：著しい体重 減少、摂餌量減少 等 胎児：切迫と殺した 母動物における 吸収胚増加 (催奇形性は認めら れない)	母動物及び胎児：60 母動物：羊水の褐色 化等 胎児：過剰肋骨の発 生頻度増加 (催奇形性は認めら れない)
イヌ	90 日間 亜急性 毒性試験	0、40、160、640、 1,000	160 雌：骨髓における細 胞密度減少及び うっ血増加	雄：40 雌：40 雌雄：体重増加抑制 等	雄：40 雌：40 雌雄：体重増加抑制 等
	1 年間 慢性毒性 試験	0、5、20、80、320	雌雄：80 雌雄：切迫と殺 (食欲不振、体重減 少のため)	雄：5 雌：20 雌雄：PLT 増加等	雌雄：5 雌雄：PLT 増加等
ADI(cRfD)			NOAEL：2.7 UF：100 cRfD：0.027	NOAEL：2.25 SF：100 ADI：0.022	NOAEL：2.7 SF：100 ADI：0.027
ADI(cRfD)設定根拠資料			マウス 18 か月間発 がん性試験	ラット 2 年間慢性毒 性/発がん性併合試 験	マウス 18 か月発が ん性試験

NOAEL：無毒性量 SF：安全係数 ADI：許容一日摂取量 UF：不確実係数 cRfD：慢性参照用量
／：記載なし

¹⁾：無毒性量欄には、最小毒性量で認められた主な毒性所見等を記した。

²⁾：全例が切迫と殺されたため、死亡時までの平均検体摂取量

表 22 単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び急性参照用量設定に関連する エンドポイント ¹⁾ (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	一般薬理試験 (尿・電解質)	雄：0、200、600、2,000	雄：－ 雄：尿量減少、Na ⁺ 、K ⁺ 、Cl ⁻ 及び蛋白排泄量低下
	一般薬理試験 (血液凝固)	雄：0、200、600、2,000	雄：－ 雄：PT、APTT 及び全血凝固時間延長、フィブリノーゲン増加
	急性毒性試験	0、5,000	雌雄：－ 雌雄：水様便
	90 日間亜急性 毒性試験	0、100、400、1,600、 3,200 ppm 雄：0、7.57、30.4、120、 253 雌：0、8.27、32.2、129、 286	雄：120 雌：129 雌雄：多臓器の出血による死亡又は切迫と殺
	2 世代繁殖試験	0、100、800、1,500 ppm P 世代 雄：0、7.3、58.9、111 雌：0、8.7、69.2、134 F ₁ 世代 雄：0、8.2、65.5、124 雌：0、8.9、70.4、136	P 雄：7.3 P 雌：8.7 F ₁ 雄：8.2 F ₁ 雌：8.9 F ₁ 児動物及び F ₂ 児動物：出血、腫脹及び死亡
	発生毒性試験	0、50、150、500、750 ²⁾	母動物：150 親動物：体表及び眼の褪色、立毛、呼吸緩徐、 膺赤色分泌物（出血）等による切迫と殺
マウス	急性毒性試験	0、5,000	雌雄：－ 雌雄：水様便
イヌ	90 日間亜急性 毒性試験	0、40、160、640、1,000	雌雄：160 体重減少、摂餌量減少及び嘔吐
ARfD			NOAEL：7.3 SF：100 ARfD：0.073
ARfD 設定根拠資料			ラット 2 世代繁殖試験

ARfD：急性参照用量、NOAEL：無毒性量、SF：安全係数

¹⁾：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

²⁾：750 mg/kg 体重/日投与群においては、著しい母動物毒性が認められたことから妊娠 10～13 日までで投与が中止された。

－：無毒性量は設定できなかった。

<別紙 1 : 代謝物/分解物/原体混在物略称>

略称		化学名
代謝物 及び 分解物	AKM-05	3-dodecyl-2-hydroxy-1,4-naphthoquinone
	AKM-08	2-hydroxy-3-(2-oxododecyl)-1,4-naphthoquinone
	AKM-14	2-hydroxy-3-butanoic acid-1,4-naphthalenedione
	AKM-15	2-hydroxy-3-hexanoic acid-1,4-naphthalenedione
	AKM-18	2-(1,2-dioxotetradecyl)-benzoic acid
	AKM-A1	AKM-05 のドデシル側鎖 2 位メチレン基の水酸化体
	AKM-B2	アセキノシルのドデシル側鎖 2 位メチレン基の水酸化体
	AKM-B3	AKM-A1 のケトン体
	2-CBAA	2-carboxy- α -oxo-benzene acetic acid
原体混在物	ADsNQ	(原体混在物)

<別紙２：検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ(GPT))
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
APVMA	オーストラリア農薬・動物用医薬品局
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ(GOT))
AUC	薬物濃度曲線下面積
C _{max}	最高濃度
Cre	クレアチニン
DMSO	ジメチルスルホキシド
EFSA	欧州食品安全機関
EPA	米国環境保護庁
FFA	遊離脂肪酸
Fib	フィブリノーゲン
Glob	グロブリン
HC	カナダ保健省
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
Lym	リンパ球
MC	メチルセルロース
Neu	好中球
PCNA	proliferating cell nuclear antigen
PL	リン脂質
PLT	血小板数
PT	プロトロンビン時間
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与（処理）放射能
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T _{max}	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
WBC	白血球

<別紙3：作物残留試験成績（国内）>

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	使用量 (g ai/ha)	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
温州みかん (施設、無袋) (果肉) 平成7年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
		2 ^a	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
		2 ^a	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	30	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	900	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
		2 ^a	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	30	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
温州みかん (施設、無袋) (果皮) 平成7年	750	0	-	<0.02	<0.02	<0.06	<0.06	<0.08	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05	<0.07
		2 ^a	7	1.80	1.76	<0.06	<0.06	1.82	1.63	1.60	0.14	0.14	1.74
		2 ^a	14	1.76	1.76	<0.06	<0.06	1.82	1.82	1.76	0.16	0.16	1.92
		2 ^a	21	1.08	1.06	<0.06	<0.06	1.12	0.72	0.67	0.07	0.06	0.73
		2 ^a	30	0.50	0.50	<0.06	<0.06	0.56	0.57	0.56	0.06	0.06	0.62
	900	0	-	<0.02	<0.02	<0.06	<0.06	<0.08	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05	<0.07
		2 ^a	7	1.88	1.85	0.74	0.74	2.59	1.08	1.06	0.50	0.48	1.54
		2 ^a	14	2.65	2.62	0.38	0.38	3.00	2.55	2.54	0.47	0.46	3.00
		2 ^a	21	2.20	2.20	0.19	0.18	2.38	0.86	0.85	0.21	0.20	1.05
		2 ^a	30	1.61	1.60	0.17	0.16	1.76	0.94	0.92	0.18	0.17	1.09
温州みかん (施設、無袋) (果実) 平成7年	750	2 ^a	7		0.395		0.029	0.424		0.352		0.037	0.389
		2 ^a	14		0.378		0.028	0.406		0.368		0.040	0.408
		2 ^a	21		0.252		0.029	0.281		0.175		0.023	0.198
		2 ^a	30		0.128		0.030	0.157		0.137		0.022	0.158
	900	2 ^a	7		0.415		0.178	0.593		0.199		0.095	0.294
		2 ^a	14		0.480		0.085	0.565		0.390		0.078	0.467
		2 ^a	21		0.404		0.049	0.453		0.153		0.042	0.195
		2 ^a	30		0.296		0.045	0.341		0.174		0.039	0.213
夏みかん (露地、無袋) (果肉) 平成7年	600	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	16	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	21	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	30	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	900	2 ^a	44	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.03	0.03	<0.02	<0.02	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	21	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
夏みかん (露地、無袋) (果皮) 平成7年	600	2 ^a	30	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	44	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	7	2.45	2.42	0.08	0.08	2.50	1.93	1.90	0.16	0.16	2.06
		2 ^a	16	1.26	1.24	0.04	0.04	1.28	1.31	1.28	0.12	0.12	1.40
	900	2 ^a	21	1.93	1.88	0.07	0.07	1.95	1.64	1.64	0.12	0.12	1.76
		2 ^a	30	1.30	1.26	0.04	0.04	1.30	1.67	1.63	0.16	0.16	1.79
		2 ^a	44	0.83	0.80	0.03	0.03	0.83	0.31	0.30	0.05	0.04	0.34
		0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	7	1.36	1.34	0.04	0.04	1.38	1.02	0.98	0.10	0.10	1.08

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	使用量 (g ai/ha)	使用回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
夏みかん (露地、無袋) (果皮) 平成7年	600	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	7	2.45	2.42	0.08	0.08	2.50	1.93	1.90	0.16	0.16	2.06
		2 ^a	16	1.26	1.24	0.04	0.04	1.28	1.31	1.28	0.12	0.12	1.40
		2 ^a	21	1.93	1.88	0.07	0.07	1.95	1.64	1.64	0.12	0.12	1.76
		2 ^a	30	1.30	1.26	0.04	0.04	1.30	1.67	1.63	0.16	0.16	1.79
		2 ^a	44	0.83	0.80	0.03	0.03	0.83	0.31	0.30	0.05	0.04	0.34
	900	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	7	1.36	1.34	0.04	0.04	1.38	1.02	0.98	0.10	0.10	1.08
		2 ^a	14	0.80	0.79	0.03	0.03	0.82	0.95	0.92	0.08	0.08	1.00
		2 ^a	21	1.15	1.14	0.03	0.03	1.17	0.65	0.62	0.06	0.06	0.68
		2 ^a	30	0.66	0.66	0.03	0.03	0.69	0.55	0.54	0.06	0.06	0.60
		2 ^a	45	0.62	0.60	0.03	0.03	0.63	0.57	0.54	0.05	0.05	0.59
夏みかん (露地、無袋) (果実) 平成7年	600	0	-		<0.02		<0.03	<0.05		<0.02		<0.02	<0.04
		2 ^a	7		0.88		0.03	0.91		0.68		0.06	0.74
		2 ^a	16		0.45		<0.03	0.48		0.46		0.04	0.50
		2 ^a	21		0.63		0.03	0.66		0.56		0.04	0.60
		2 ^a	30		0.40		<0.03	0.43		0.55		0.05	0.60
		2 ^a	44		0.29		<0.03	0.32		0.11		0.02	0.13
	900	0	-		<0.02		<0.03	<0.05		<0.02		<0.02	<0.04
		2 ^a	7		0.41		<0.03	0.44		0.26		0.03	0.29
		2 ^a	14		0.24		<0.03	0.27		0.24		0.02	0.26
		2 ^a	21		0.33		<0.03	0.36		0.16		0.02	0.18
		2 ^a	30		0.21		<0.03	0.24		0.20		0.02	0.22
		2 ^a	45		0.19		<0.03	0.22		0.14		<0.02	0.16
夏みかん (露地、無袋) (果肉) 平成9年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
		2 ^a	21	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
		2 ^a	30	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	45	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	600	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	14	0.03	0.03	<0.02	<0.02	0.05	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
		2 ^a	21	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
		2 ^a	30	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	45	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
夏みかん (露地、無袋) (果皮) 平成9年	750	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	14	1.83	1.80	0.15	0.15	1.95	1.60	1.54	0.11	0.10	1.64
		2 ^a	21	1.42	1.39	0.08	0.08	1.47	1.74	1.58	0.13	0.12	1.70
		2 ^a	30	1.90	1.83	0.11	0.11	1.94	1.60	1.60	0.10	0.09	1.69
		2 ^a	45	1.29	1.25	0.08	0.07	1.32	1.28	1.18	0.12	0.11	1.29
	600	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	14	1.12	1.10	0.11	0.11	1.21	1.54	1.49	0.15	0.15	1.64
		2 ^a	21	0.97	0.96	0.11	0.11	1.07	1.39	1.34	0.14	0.14	1.48
		2 ^a	30	1.24	1.24	0.11	0.11	1.35	0.76	0.74	0.12	0.12	0.86
		2 ^a	45	0.53	0.53	0.22	0.22	0.75	0.67	0.64	0.40	0.40	1.04
夏みかん (露地、無袋) (果実) 平成9年	750	0	-		<0.02		<0.03	<0.05		<0.02		<0.02	<0.04
		2 ^a	14		0.60		0.04	0.64		0.50		0.03	0.53
		2 ^a	21		0.45		0.03	0.48		0.53		0.04	0.57
		2 ^a	30		0.54		0.03	0.57		0.51		0.03	0.54
		2 ^a	45		0.40		0.03	0.43		0.42		0.04	0.46
	600	0	-		<0.02		<0.03	<0.05		<0.02		<0.02	<0.04
		2 ^a	14		0.35		0.03	0.38		0.47		0.05	0.52
		2 ^a	21		0.31		0.03	0.34		0.44		0.04	0.48
		2 ^a	30		0.34		0.03	0.37		0.21		0.03	0.24
		2 ^a	45		0.16		0.07	0.23		0.19		0.12	0.31

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
レモン (露地、無袋) (果実) 平成 7 年	750	0	-						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	8						0.34	0.34	0.05	0.05	0.39
		2 ^a	14						0.35	0.35	0.06	0.06	0.41
		2 ^a	22						0.23	0.23	0.04	0.04	0.27
		2 ^a	28						0.20	0.19	0.05	0.05	0.24
		2 ^a	42						0.15	0.15	0.04	0.04	0.19
かぼす (露地、無袋) (果実) 平成 7 年	600	0	-						<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7						0.22	0.22	0.07	0.07	0.29
		2 ^a	14						0.14	0.13	0.04	0.04	0.17
		2 ^a	21						0.05	0.05	0.02	0.02	0.07
		2 ^a	31						0.05	0.04	0.02	0.02	0.06
		2 ^a	43						0.02	0.02	0.02	0.02	0.04
すだち (露地、無袋) (果実) 平成 7 年	750	0	-						<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7						0.39	0.39	0.07	0.07	0.46
		2 ^a	14						0.26	0.25	0.04	0.04	0.29
		2 ^a	21						0.15	0.14	0.02	0.02	0.16
		2 ^a	28						0.14	0.14	0.02	0.02	0.16
		2 ^a	44						0.05	0.05	0.02	0.02	0.07
りんご (露地、無袋) (果実) 平成 7 年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	6 ^a	0.18	0.18	<0.02	<0.02	0.20	0.19	0.18	<0.01	<0.01	0.19
		2 ^a	14	0.17	0.16	<0.02	<0.02	0.18	0.18	0.18	<0.01	<0.01	0.19
		2 ^a	22	0.15	0.14	<0.02	<0.02	0.16	0.20	0.20	<0.01	<0.01	0.21
		2 ^a	30	0.17	0.16	<0.02	<0.02	0.18	0.22	0.22	<0.01	<0.01	0.23
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.25	0.24	0.02	0.02	0.26	0.24	0.24	0.01	0.01	0.25
		2 ^a	14	0.17	0.16	0.02	0.02	0.18	0.15	0.14	<0.01	<0.01	0.15
		2 ^a	21	0.09	0.08	<0.02	<0.02	0.10	0.10	0.10	<0.01	<0.01	0.11
		2 ^a	30	0.06	0.06	<0.02	<0.02	0.08	0.12	0.12	<0.01	<0.01	0.13
なし (露地、無袋) (果実) 平成 7 年	600	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7	0.49	0.48	0.02	0.02	0.50	0.76	0.75	<0.02	<0.02	0.77
		2 ^a	14	0.14	0.14	<0.02	<0.02	0.16	0.33	0.33	0.04	0.04	0.37
		2 ^a	21	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	0.14	0.14	0.02	0.02	0.16
		2 ^a	28	0.05	0.05	<0.02	<0.02	0.07	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10
	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7	0.16	0.16	<0.02	<0.02	0.18	0.26	0.26	0.02	0.02	0.28
		2 ^a	14	0.11	0.10	0.02	0.02	0.12	0.19	0.18	0.02	0.02	0.20
		2 ^a	21	0.04	0.04	<0.02	<0.02	0.06	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08
		2 ^a	28	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	0.04	0.04	<0.02	<0.02	0.06
なし (露地、無袋) (果実) 平成 8 年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.33	0.33	0.02	0.02	0.35	0.34	0.32	<0.01	<0.01	0.33
		2 ^a	14	0.15	0.15	<0.02	<0.02	0.17	0.16	0.15	<0.01	<0.01	0.16
		2 ^a	21	0.08	0.08	<0.02	<0.02	0.10	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06
	600	2 ^a	28	0.05	0.05	<0.02	<0.02	0.07	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.05
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.22	0.22	0.02	0.02	0.24	0.31	0.30	<0.01	<0.01	0.31
		2 ^a	14	0.20	0.20	0.02	0.02	0.22	0.10	0.10	<0.01	<0.01	0.11
		2 ^a	21	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07
		2 ^a	28	0.07	0.07	<0.02	<0.02	0.09	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
なし (露地、無袋) (果実) 平成 13 年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	1	0.43	0.42	<0.02	<0.02	0.44	0.32	0.32	<0.02	<0.02	0.34
		1	3	0.32	0.32	<0.02	<0.02	0.34	0.24	0.24	<0.02	<0.02	0.26
		1	7	0.17	0.16	<0.02	<0.02	0.18	0.16	0.16	<0.02	<0.02	0.18
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	1	0.16	0.16	<0.02	<0.02	0.18	0.13	0.13	<0.02	<0.02	0.15
		1	3	0.13	0.13	<0.02	<0.02	0.15	0.09	0.09	<0.02	<0.02	0.11
		1	7	0.08	0.08	<0.02	<0.02	0.10	0.06	0.06	<0.02	<0.02	0.08

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
もも (露地、無袋) (果実) 平成 8 年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	1 ^a	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	3 ^a	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	600	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	1 ^a	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	3 ^a	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02
		2 ^a	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
もも (露地、無袋) (果皮) 平成 8 年	750	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	1 ^a	4.40	4.33	0.72	0.69	5.02	1.89	1.86	0.52	0.52	2.38
		2 ^a	3 ^a	2.50	2.46	0.66	0.65	3.11	0.93	0.87	0.43	0.41	1.28
		2 ^a	7	1.57	1.57	0.49	0.49	2.06	0.88	0.86	0.35	0.34	1.20
		2 ^a	14	0.65	0.63	0.19	0.19	0.82	0.55	0.53	0.26	0.26	0.79
	600	0	-	0.02	0.02	<0.03	<0.03	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04
		2 ^a	1 ^a	6.68	6.54	0.40	0.40	6.94	4.58	4.40	0.39	0.38	4.78
		2 ^a	3 ^a	4.05	3.92	0.59	0.55	4.49	3.95	3.90	0.49	0.49	4.39
		2 ^a	7	3.64	3.62	0.39	0.39	4.01	1.53	1.52	0.18	0.17	1.69
		2 ^a	14	2.39	2.32	0.25	0.24	2.56	1.09	1.06	0.03	0.03	1.09
おうとう (施設) (果実) 平成 8 年	750	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.28	0.27	0.03	0.03	0.30	0.38	0.38	0.06	0.06	0.44
		2 ^a	14	0.14	0.14	0.02	0.02	0.16	0.14	0.14	0.03	0.03	0.17
		2 ^a	21	0.08	0.08	0.02	0.02	0.10	0.08	0.08	0.01	0.01	0.09
		2 ^a	28	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.03
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		2 ^a	7	0.47	0.47	0.03	0.02	0.49	0.53	0.52	0.05	0.05	0.57
		2 ^a	14	0.26	0.25	0.03	0.02	0.27	0.20	0.20	0.04	0.04	0.24
		2 ^a	21	0.12	0.12	0.02	0.02	0.14	0.09	0.08	0.01	0.01	0.09
		2 ^a	28	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08
なす (施設) (果実) 平成 7 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	0.44	0.44	0.06	0.05	0.49	0.42	0.41	0.06	0.04	0.45
		2 ^a	3	0.28	0.27	0.03	0.02	0.29	0.34	0.34	0.03	0.03	0.37
		2 ^a	7	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12	0.10	0.10	0.02	0.02	0.12
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	0.30	0.30	0.03	0.03	0.33	0.33	0.32	0.04	0.03	0.35
		2 ^a	3	0.30	0.30	0.04	0.04	0.34	0.26	0.26	0.06	0.06	0.32
		2 ^a	7	0.17	0.17	0.02	0.02	0.19	0.14	0.14	0.02	0.02	0.16
なす (施設) (果実) 平成 9 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	0.06	0.06	0.03	0.02	0.08	0.16	0.16	0.07	0.07	0.23
		2 ^a	3	0.12	0.12	0.04	0.04	0.16	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09
		2 ^a	7	0.04	0.04	0.02	0.02	0.06	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	0.29	0.28	0.04	0.04	0.32	0.17	0.16	0.07	0.07	0.23
		2 ^a	3	0.19	0.18	0.03	0.03	0.21	0.13	0.13	0.04	0.04	0.17
		2 ^a	7	0.15	0.14	0.02	0.02	0.16	0.09	0.08	0.03	0.03	0.11
すいか (施設) (果実) 平成 8 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		2 ^a	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	使用量 (g ai/ha)	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)										
				公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関					
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計	
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値		
メロン (施設) (果実) 平成 8 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
	525 ^a	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
茶 (露地・ 簡易被覆) (荒茶) 平成 7 年	600	0	-	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2	<0.3	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1	<0.2	
		2 ^a	7	14.6	14.4	18.9	18.5	32.9	13.4	13.4	14.6	14.4	27.8	
		2 ^a	14	3.26	3.19	5.4	5.3	8.5	3.17	3.08	4.1	4.0	7.1	
		2 ^a	21	0.19	0.19	0.6	0.6	0.8	0.19	0.19	0.5	0.5	0.7	
		0	-	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2	<0.3	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1	<0.2	
		2 ^a	7	1.24	1.24	3.6	3.6	4.8	1.58	1.52	2.4	2.4	3.9	
		2 ^a	14	0.29	0.28	0.7	0.7	1.0	0.23	0.22	0.6	0.6	0.8	
		2 ^a	21	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2	<0.3	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1	<0.2	
茶 (露地・ 簡易被覆) (荒茶) 平成 9 年	600	0	-	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2	<0.3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.1	
		2 ^a	7	0.88	0.88	2.7	2.7	3.6	0.80	0.78	1.81	1.78	2.6	
		2 ^a	14	0.16	0.14	0.2	0.2	0.3	0.14	0.14	0.15	0.14	0.3	
		2 ^a	21	0.09	0.09	0.2	0.2	0.3	0.14	0.14	0.09	0.08	0.2	
		0	-	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2	<0.3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.1	
		2 ^a	7	5.15	4.93	9.7	9.4	14.3	4.67	4.62	1.55	1.46	6.1	
		2 ^a	14	3.31	3.28	3.2	3.2	6.5	3.36	3.30	1.19	1.18	4.5	
		2 ^a	21	0.79	0.76	0.8	0.8	1.6	0.75	0.74	0.45	0.42	1.2	
きゅうり (施設) (果実) 平成 10 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	1	0.04	0.04	0.03	0.03	0.07	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08	
		2 ^a	3	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
	375	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		2 ^a	1	0.04	0.04	0.02	0.02	0.06	0.09	0.09	0.02	0.02	0.11	
		2 ^a	3	0.07	0.07	0.02	0.02	0.09	0.04	0.04	<0.02	<0.02	0.06	
		2 ^a	7	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	
ぶどう (施設) (果実) 平成 11 年	450	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
		1	7 ^a	0.14	0.14	0.12	0.11	0.25	0.20	0.20	0.15	0.13	0.33	
		1	14	0.06	0.06	0.08	0.07	0.13	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	
		1	21	0.03	0.03	0.02	0.02	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.08	
		1	28	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.04	
		ぶどう (施設) (果実) 平成 12 年	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
			1	14	0.07	0.07	0.03	0.03	0.10	0.10	0.10	0.04	0.04	0.14
			1	21	0.03	0.03	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04
1	28		0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03		
すもも (露地) (果実) 平成 12 年	450	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
		1	3	0.03	0.03	<0.02	<0.02	0.05	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	
		1	7	0.02	0.02	<0.02	<0.02	0.04	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.04	
		1	14	0.01	0.01	<0.02	<0.02	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
		1	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
		0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
		1	3	0.23	0.22	<0.02	<0.02	0.24	0.16	0.16	0.02	0.02	0.18	
		1	7	0.26	0.26	0.02	0.02	0.28	0.13	0.12	0.02	0.02	0.14	
		1	14	0.12	0.12	0.02	0.02	0.14	0.10	0.09	0.02	0.02	0.11	
1	21	0.05	0.05	<0.02	<0.02	0.07	0.05	0.04	0.01	0.01	0.05			

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	使用量 (g ai/ha)	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
さんしょう (露地) (果実) 平成 16 年	450	0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	7 ^a	2.43	2.40	0.12	0.12	2.5					
		1	14 ^a	0.82	0.81	0.06	0.06	0.9					
		1	21 ^a	0.72	0.72	0.06	0.06	0.8					
		1	30	0.22	0.22	<0.06	<0.06	0.3					
		1	44	0.06	0.06	<0.06	<0.06	0.2					
		0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	7 ^a	3.92	3.92	0.21	0.21	4.1					
		1	15 ^a	1.24	1.21	0.07	0.07	1.3					
		1	21 ^a	2.92	2.85	0.12	0.11	3.0					
		1	30	0.72	0.72	<0.06	<0.06	0.8					
		1	45	0.48	0.48	<0.06	<0.06	0.5					
		1	60	0.10	0.10	<0.06	<0.06	0.2					
あけび (露地) (果実) 平成 17 年	750	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	3						0.44	0.44	0.07	0.07	0.51
		1	7						0.63	0.58	0.12	0.11	0.69
		1	14						0.40	0.38	0.05	0.05	0.43
		0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	3						0.47	0.44	<0.05	<0.05	0.49
		1	7						0.76	0.74	0.07	0.07	0.81
		1	14						0.58	0.58	<0.05	<0.05	0.63
カボチャ (露地) (果実) 平成 15 年	375	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	300	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10
		1	7	0.02	0.02	0.03	0.03	0.05	0.11	0.11	<0.05	<0.05	0.16
		1	14	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	0.06	0.06	<0.05	<0.05	0.16
ネクタリン (露地) (果実) 平成 16 年	600	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03					
		1	3	0.23	0.22	0.15	0.14	0.36					
		1	7	0.11	0.11	0.07	0.07	0.18					
		1	14	0.03	0.03	0.02	0.02	0.05					
	900	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03					
		1	3	0.26	0.25	0.06	0.05	0.30					
		1	7	0.15	0.15	0.06	0.06	0.21					
		1	14	0.06	0.06	0.04	0.04	0.10					
やまのいも (露地) (塊茎) 平成 13 年	450	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
		1	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
あずき (露地) (子実) 平成 13 年	225	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	450	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
		1	7	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.08	0.08	0.12	0.12	0.20
		1	14	0.02	0.02	0.03	0.03	0.05	0.02	0.02	0.09	0.09	0.11
		1	21	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.03	0.03	0.06	0.06	0.09
しそ (施設) (葉) 平成 17 年	200	0	-	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3					
		1	7 ^a	27.7	27.3	2.3	2.3	29.6					
		1	14	12.3	12.2	1.0	1.0	13.2					
		1	21	4.5	4.4	0.4	0.4	4.8					
		0	-	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3					
		1	7 ^a	14.2	14.1	1.6	1.6	15.7					
		1	14	6.5	6.4	0.8	0.8	7.2					
		1	21	2.0	2.0	0.3	0.2	2.2					

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
いちご (施設) (果実) 平成 18 年	300	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05
		1	1	0.41	0.40	0.03	0.03	0.43	0.39	0.38	0.03	0.03	0.41
		1	3	0.13	0.12	0.03	0.03	0.15	0.36	0.36	0.07	0.07	0.43
		1	7	0.08	0.08	<0.03	<0.03	0.11	0.14	0.14	<0.03	<0.03	0.17
		0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05
		1	1	0.63	0.62	0.03	0.03	0.65	0.51	0.49	0.03	0.03	0.52
		1	3	0.65	0.65	0.06	0.06	0.71	0.68	0.66	0.04	0.04	0.70
		1	7	0.32	0.32	0.03	0.03	0.35	0.35	0.34	0.03	0.03	0.37
パパイヤ (施設) (果実) 平成 17 年	300	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	3						0.26	0.26	<0.05	<0.05	0.31
		1	7						0.40	0.40	<0.05	<0.05	0.45
		1	14						0.34	0.32	0.07	0.07	0.39
	167	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	3						0.34	0.34	0.08	0.08	0.42
		1	7						0.04	0.03	0.09	0.08	0.12
		1	14						0.08	0.08	<0.05	<0.05	0.13
マンゴー (施設) (果実) 平成 18 年	450	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	7						<0.04	<0.04	0.13	0.13	0.17
		1	14						<0.04	<0.04	0.07	0.07	0.11
		1	21						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	3 ^a						<0.04	<0.04	0.15	0.15	0.19
		1	7						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	14						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
ピーマン (施設) (果実) 平成 19 年	300	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05
		1	1	0.53	0.52	0.03	0.03	0.55	0.77	0.76	0.03	0.03	0.79
		1	3	0.60	0.58	0.03	0.03	0.61	0.62	0.62	<0.03	<0.03	0.65
		1	7	0.50	0.49	0.03	0.03	0.52	0.36	0.36	0.03	0.03	0.39
	450	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05
		1	1	0.91	0.90	0.08	0.08	0.98	0.88	0.88	0.07	0.07	0.95
		1	3	0.43	0.42	0.08	0.08	0.50	0.40	0.39	0.06	0.06	0.45
		1	7	0.22	0.21	0.04	0.04	0.25	0.19	0.18	0.03	0.03	0.21
さといも (施設) (葉柄) 平成 18 年	200	0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	3	0.21	0.20	<0.06	<0.06	0.3					
		1	7	0.15	0.14	<0.06	<0.06	0.2					
		1	14	0.12	0.12	<0.06	<0.06	0.2					
		0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	3	0.74	0.70	<0.06	<0.06	0.8					
		1	7	0.31	0.30	<0.06	<0.06	0.4					
		1	14	0.33	0.30	<0.06	<0.06	0.4					
ゴレンシ (施設) (果実) 平成 19 年	420	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	7						0.17	0.16	<0.05	<0.05	0.21
		1	14						0.08	0.08	<0.05	<0.05	0.13
		1	21						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
	498	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
		1	7						0.17	0.16	<0.05	<0.05	0.21
		1	14						0.08	0.08	<0.05	<0.05	0.13
		1	21						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09
食用ぎく (施設) (花器全体) 平成 19 年	300	0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	7	1.67	1.66	0.30	0.30	2.0					
		1	14	0.77	0.73	0.06	0.06	0.8					
		1	21	0.42	0.42	<0.06	<0.06	0.5					
	375	0	-	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06	<0.2					
		1	7	0.84	0.82	0.09	0.09	0.9					
		1	14	0.28	0.26	<0.06	<0.06	0.3					
		1	21	0.06	0.06	<0.06	<0.06	0.2					

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)										
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関					
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計	
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値		
食用パンジー (施設) (花全体) 平成 20 年	267	0	-	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09						
		1	7	7.17	6.95	0.16	0.15	7.10						
		1	14	0.71	0.70	<0.05	<0.05	0.75						
		1	21	0.06	0.06	<0.05	<0.05	0.11						
	300	0	-	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09						
		1	7	7.49	7.46	0.32	0.31	7.77						
		1	14	1.25	1.24	<0.05	<0.05	1.29						
		1	21	0.23	0.22	<0.05	<0.05	0.27						
うめ (露地) (果実) 平成 17 年	750	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
		1	3 ^a	1.28	1.28	0.04	0.04	1.32	1.51	1.50	0.04	0.04	1.54	
		1	7	0.85	0.84	0.04	0.04	0.88	0.91	0.88	0.04	0.04	0.92	
		1	14	0.38	0.38	0.03	0.03	0.41	0.42	0.42	0.03	0.03	0.45	
	450	0	-	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
		1	3 ^a	0.33	0.32	0.03	0.03	0.35	0.43	0.42	0.03	0.03	0.45	
		1	7	0.32	0.32	0.03	0.03	0.35	0.26	0.26	0.03	0.03	0.29	
		1	14	0.32	0.32	0.03	0.03	0.35	0.26	0.26	0.03	0.03	0.29	
きく (施設) (葉) 平成 20 年	300	0	-	<0.01	<0.01	<0.2	<0.2	<0.3						
		2	7	6.3	6.2	0.4	0.4	6.6						
		2	14	0.1	0.1	<0.2	<0.2	0.3						
		2	21	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3						
		0	-	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3						
		2	7	0.7	0.7	<0.2	<0.2	0.9						
		2	14	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3						
		2	21	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3						
食用カー ネーション (施設) (花全体) 平成 21 年	300	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09	
		1	7						0.61	0.59	0.06	0.06	0.65	
		1	14						0.36	0.36	<0.05	<0.05	0.41	
		1	21						0.14	0.14	<0.05	<0.05	0.19	
		0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.09	
		1	7						1.07	1.06	0.08	0.08	1.14	
		1	14						0.69	0.68	<0.05	<0.05	0.73	
		1	21						0.24	0.23	<0.05	<0.05	0.28	
はすいも (施設) (葉柄) 平成 23 年	300	0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	1						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	3						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	7						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		0	-						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	1						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	3						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
		1	7						<0.04	<0.04	<0.05	<0.05	<0.1	
未成熟 とうもろこし (露地) (種子) 平成 28 年	251	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
	278	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
未成熟 とうもろこし (露地) (種子) 平成 29 年	294	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
		1	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02						
エンサイ (施設) (茎葉) 平成 29 年	225	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03						
		2 ^a	3	9.96	9.46	0.44	0.43	9.89						
		2 ^a	7	1.91	1.87	0.06	0.06	1.93						
		2 ^a	14	0.15	0.14	<0.02	<0.02	0.16						

作物名 (栽培形態) (分析部位) 試験年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	使用 回数	経過 日数	残 留 値 (mg/kg)									
				公 的 分 析 機 関					私 的 分 析 機 関				
				アセキノシル		AKM-05		合計	アセキノシル		AKM-05		合計
				最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
エンサイ (施設) (茎葉) 平成 30 年	225	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03					
		2 a	3	4.10	4.08	0.58	0.57	4.65					
		2 a	7	1.66	1.63	0.04	0.04	1.67					
		2 a	14	0.07	0.06	<0.02	<0.02	0.08					

／：該当なし

注) ・ 散布にはフロアブル(有効成分量 15%)を用いた。

- ・ 農薬の使用量、使用回数及び使用時期 (PHI) が登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は、該当箇所に a 印を付した。
- ・ 全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。
- ・ なす、きゅうり、みかん、なつみかん、レモン、かぼす、すだち、りんご、もも、おうとう、茶及びエンサイについては、登録されている使用回数の試験結果がなかったことから、登録とは異なる使用条件での試験結果を評価に用いた。

<別紙４：作物残留試験成績（海外）>

・ドイツ

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	散布 回数	経過 日数	分 析 結 果(mg/kg)				
				アセキノシル		AKM-05		合計 ※1
				最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値	
ホップ (露地) (green corns) 2005 年度	15%SC 4.5L/ha	0	0	ND		ND		<0.07
		1	0 ^a	10.3		0.52		10.88
		1	7 ^a	5.9		0.23		6.16
		1	14 ^a	5.0		0.14		5.16
		1	21	5.3	5.0	0.16	0.16	5.18
		1	28	8.5	8.5	0.24	0.22	8.74
	15%SC 4.5L/ha	0	0	ND		ND		<0.07
		1	0 ^a	7.8		0.71		8.60
		1	7 ^a	1.9		0.12		2.03
		1	14 ^a	1.1		<0.10		1.3
		1	21	0.60	0.56	ND.	ND.	0.60
		1	28	0.10		<0.10		0.30
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	0.31		ND.		0.35
		1	28	6.9	6.9	0.23	0.21	7.13
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	1.7		0.10		1.82
		1	28	1.0		0.10		1.12
ホップ (露地) (dry corns) 2005 年度	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	9.7		2.7		12.7
		1	28	9.2		1.3		10.7
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	0.54	0.49	0.49	0.40	0.94
		1	28	0.16		0.10		0.27
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	0.51		0.42		0.98
		1	28	0.14	0.13 ^{※2}	0.24	0.21 ^{※2}	0.37
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	3.7		0.67		4.45
		1	28	2.1		0.39		2.54
ホップ (露地) (green corns) 2006 年度	15%SC 4.5L/ha	0	0	ND	ND	ND	ND	<0.07
		1	0 ^a	4.3	3.9	0.38	0.24	4.18
		1	7 ^a	4.8	4.1 ^{※2}	0.19	0.17 ^{※2}	4.28
		1	14 ^a	2.3	2.2	0.10	0.10	2.31
		1	21	3.3	2.2 ^{※2}	0.10	0.10 ^{※2}	2.31
		1	28	3.5	2.9 ^{※2}	0.13	0.13 ^{※2}	3.04
	15%SC 4.5L/ha	0	0	ND		ND		<0.07
		1	0 ^a	5.6		0.42		6.07
		1	7 ^a	3.8		0.14		3.96
		1	14 ^a	0.97		<0.10.		1.08
		1	21	1.1		<0.10		1.21
		1	28	0.75	0.57 ^{※2}	<0.10	<0.10 ^{※2}	0.68
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	3.0		0.15		3.17
		1	28	2.2		0.11		2.32
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	0.27		ND		0.38
		1	28	0.21		ND		0.24

ホップ (露地) (dry corns) 2006 年度	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	4.2		1.5		5.9
		1	28	3.5		1.3		5.0
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	1.4		0.66		2.14
		1	28	1.2	0.68 ^{※3}	0.46	0.23 ^{※3}	0.94
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	7.6		2.7		10.6
		1	28	5.1		1.4		6.7
	15%SC 4.5L/ha	0	21	ND		ND		<0.07
		1	21	0.75		0.37		1.16
		1	28	0.55		0.29		0.87

※1 合計＝アセキノシル＋ (AKM-05 ×換算係数 1.12)

※2 3 反復の平均値

※3 4 反復の平均値

SC: フロアブル剤

ND: 検出限界未満

・農薬の使用時期が使用方法と異なる場合は、*印を付した。

・ 米国

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(ai) 希釈倍数 使用量 使用方法	散布 回数	経過 日数	分 析 結 果 (mg/kg)				
				アセキノシル		AKM-05		合計 ※1
				最 高 値	平 均 値	最 高 値	平 均 値	
ホップ (露地) (dry corns) 2005 年度	15%SC 0.3lbs.ai/A	0	—	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.22
		2	7	2.53	2.44	0.201	0.200	2.640
	15%SC 0.3lbs.ai/A	0	—	<0.10		<0.10		<0.22
		2	7	1.28	1.18	0.256	0.206	1.386
	15%SC 0.3lbs.ai/A	0	—	<0.10		<0.10		<0.22
		2	7	1.12	1.12	0.735	0.662	1.782

※1 合計＝アセキノシル＋ (AKM-05 ×換算係数 1.12)

SC: フロアブル剤

<別紙5：推定摂取量>

食品名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児 (体重：16.5 kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者 (65 歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
小豆	0.2	2.4	0.48	0.8	0.16	0.8	0.02	2.7	0.54
さといも	0.4	11.6	4.64	5.7	2.28	7.9	3.16	17.3	6.92
その他のきく科野菜	6.6	0.4	2.64	0.1	0.66	0.5	3.30	0.7	4.62
ピーマン	0.98	4.4	4.31	2	1.96	1.9	1.86	3.7	3.63
なす	0.49	4	1.96	0.9	0.44	3.3	4.90	17.1	8.38
きゅうり	0.11	20.7	2.28	9.6	1.06	14.2	1.56	25.6	2.82
かぼちゃ	0.16	9.3	1.49	3.7	0.59	7.9	1.26	13	2.08
その他の野菜	9.89	13.4	133	6.3	62.3	10.1	99.9	14.1	139
みかん	0.03	17.8	0.53	16.4	0.49	0.6	0.02	26.2	0.79
なつみかんの果実 全体	0.91	1.3	1.18	0.7	0.64	4.8	4.37	2.1	1.91
レモン	0.41	0.5	0.21	0.1	0.04	0.2	0.08	0.6	0.25
その他のかんきつ	0.46	5.9	2.71	2.7	1.24	2.5	1.15	9.5	4.37
りんご	0.26	24.2	6.29	30.9	8.03	18.8	4.89	32.4	8.42
日本なし	0.44	6.4	2.82	3.4	1.50	9.1	4.00	7.8	3.43
もも	0.04	3.4	0.14	3.7	0.15	5.3	0.21	4.4	0.18
ネクタリン	0.36	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04
すもも	0.28	1.1	0.31	0.7	0.20	0.6	0.17	1.1	0.31
うめ	0.92	1.4	1.29	0.3	0.28	0.6	0.55	1.8	1.66
おうとう	0.57	0.4	0.23	0.7	0.40	0.1	0.06	0.3	0.17
いちご	0.71	5.4	3.83	7.8	5.54	5.2	3.69	5.9	4.19
ぶどう	0.14	8.7	1.22	8.2	1.15	20.2	2.83	9	1.26
パパイヤ	0.45	0.2	0.09	0.3	0.05	0.1	0.05	0.1	0.05
マンゴー	0.17	0.3	0.05	0.3	0.05	0.1	0.02	0.3	0.05
その他の果実	0.81	1.2	0.97	0.4	0.32	0.9	0.73	1.7	1.38
茶	32.9	6.6	217	1	32.9	3.7	122	9.4	309
その他のスパイス	3.00	0.1	0.30	0.1	0.30	0.1	0.30	0.2	0.60
その他のハーブ	13.2	0.9	11.9	0.3	3.96	0.1	1.32	1.4	18.5
合計			408		125		265		532

注) ・農産物の残留値は、登録又は申請されている使用時期・回数によるアセキノシル及び代謝物 AKM-05 の最大の平均残留値を用いた (参照 別紙 3)。

- ・「ff」：平成 17～19 年の食品摂取頻度・摂取量調査 (参照 33) の結果に基づく農産物摂取量 (g/人/日)
- ・「摂取量」：残留値及び農産物摂取量から求めたアセキノシル及び AKM-05 の推定摂取量 (μg/人/日)
- ・なす、きゅうり、みかん、なつみかん、レモン、かぼす、すだち、りんご、もも、おうとう、茶及びえんさいについては、登録されている使用回数の試験結果がなかったことから、登録とは異なる使用条件での試験結果の値を用いた。
- ・すいか、メロン、やまのいも及び未成熟とうもろこしは、全データが定量限界未満であったため摂取量の計算はしていない。
- ・その他のきく科野菜については、食用ぎく及びきく (葉) のうち、残留値の高いきく (葉) の値

を用いた。

- その他の野菜についてはさといも（葉柄）、食用パンジー、食用カーネーション、はすいも（葉柄）及びえんさいのうち、残留値の高いえんさいの値を用いた。
- その他のかんきつについてはかぼす及びすだちのうち、残留値の高いかぼすの値を用いた。
- その他の果実については、あけび及びゴレンシのうち、残留値の高いあけびの値を用いた。
- その他のスパイスについては、温州みかん（果皮）及びサンショウのうち、残留値の高い温州みかん（果皮）の値を用いた。
- その他のハーブについてはシソの値を用いた。

<参照>

- 1 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付け平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
- 2 農薬抄録アセキノシル（殺ダニ剤）：アグロカネショウ株式会社、平成 19 年 2 月 14 日改訂、一部公表
- 3 EPA①：Health Effects Division (HED) Risk Assessment ACEQUINOCYL、2004 年
- 4 EPA②：Federal Register / Vol. 69, No. 139, 43525～43533、2004 年
- 5 食品健康影響評価について（平成 19 年 7 月 13 日付け厚生労働省発食安第 0713001 号）
- 6 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 20 年 9 月 11 日付け府食第 984 号）
- 7 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 22 年 2 月 18 日付け、平成 22 年厚生労働省告示第 56 号）
- 8 食品健康影響評価について（平成 22 年 1 月 4 日付け厚生労働省発食安 0104 第 1 号）
- 9 農薬抄録アセキノシル（殺ダニ剤）：アグロカネショウ株式会社、平成 21 年 9 月 7 日改訂、一部公表
- 10 アセキノシル作物残留試験成績報告：アグロカネショウ株式会社、2005～2007 年、未公表
- 11 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 22 年 6 月 17 日付け府食第 473 号）
- 12 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 23 年 3 月 28 日付け、厚生労働省告示第 80 号）
- 13 食品健康影響評価について（平成 23 年 10 月 6 日付け厚生労働省発食安 1006 第 10 号）
- 14 農薬抄録アセキノシル（殺ダニ剤）：アグロカネショウ株式会社、平成 23 年 6 月 20 日改訂、一部公表
- 15 アセキノシル作物残留試験成績報告：アグロカネショウ株式会社、未公表
- 16 アセキノシル海外作物残留試験成績：アグロカネショウ株式会社、未公表
- 17 国民栄養の現状－平成 10 年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2000 年
- 18 国民栄養の現状－平成 11 年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2001 年
- 19 国民栄養の現状－平成 12 年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2002 年
- 20 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 24 年 3 月 29 日付け府食第 313 号）
- 21 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 25 年 3 月 12 日付け、厚生労働省告示第 45 号）
- 22 食品健康影響評価について（令和 3 年 12 月 8 日付け厚生労働省発食 1208 第 2 号）
- 23 農薬抄録アセキノシル（殺ダニ剤）：アグロカネショウ株式会社、令和元年 5 月 29 日改訂、一部公表
- 24 アセキノシル水和剤（カネマイト）フロアブル 未成熟トウモロコシ 作物残留試験（GLP 対応）：一般財団法人日本植物防疫協会、2016 年、未公表
- 25 アセキノシル水和剤（カネマイト）フロアブル 未成熟トウモロコシ 作物残留試験（GLP 対応）：一般財団法人日本植物防疫協会、2018 年、未公表

- 26 アセキノシル水和剤（カネマイトフロアブル）エンサイ作物残留試験：日本エコテック株式会社、2017 年、未公表
- 27 アセキノシル水和剤（カネマイトフロアブル）エンサイ作物残留試験：日本エコテック株式会社、2018 年、未公表
- 28 Acequinocyl Technical : Neurotoxicity Study by a Single Oral Gavage Administration to Sprague-Dawley Rats followed by a 14-Day Observation Period (GLP 対応) : Huntingdon Life Science (英国)、2013 年、未公表
- 29 EFSA : Conclusion regarding the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance. EFSA J. 11(5) : 3212、2013 年
- 30 EPA③ : MEMORANDUM ; Acequinocyl ,Human Health Risk Assessment for the Proposed New Use on Tropical and Subtropical, Medium to Large Fruit, Smooth, Inedible Peel(Crop Subgroup 24B)、2021 年
- 31 APVMA : Public Release Summary on the evaluation of the new active constituent acequinocyl in the product Kanemite Miticide 、2020 年
- 32 HC : Evaluation Report ERC2007-101 : Acequinocyl 、2007 年
- 33 平成 17～19 年度食品摂取頻度・摂取量調査（薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014 年 2 月 20 日）

アセキノシルに係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 令和4年3月9日～令和4年4月7日

2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送

3. 提出状況 1通

4. 頂いた意見・情報及びそれに対する食品安全委員会の回答

頂いた意見・情報※	食品安全委員会の回答
承認農薬成分数約 600 種、添加物約 830 種、遺伝子組換え食品系 400 種、遺伝子組換え飼料 100 種、抗生物質、ホルモン剤、ゲノム編集成分など、全部合わせれば驚くべき数字。にも関わらず、審査の段階では単品の成分で影響を確認するにとどまっている。複合効果を検証しろと意見を出しても「複数の化合物への暴露については、現段階では国際的にも、評価手法として確立したものはなく、検討段階にある・・・。FAO/WHOでは、・・・複数の化合物への暴露に対するリスク評価手法について検討することとされていることから、引き続き、最新の情報収集に努めてまいります。」という「先送り」状態。「確立されていないからこそ、確立されるまで一律禁止」にすべきではないか？ 一律禁止ができないなら、既存の基準値もすべて安全係数を 1,000 に設定して基準を厳しくすべき。	食品安全委員会では、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に、食品を介した農薬の摂取による人の健康への影響について評価を行っています。 複数の化合物へのばく露については、現段階では、JMPR（FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議）や JECFA（FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議）において、複数の化合物へのばく露に対するリスク評価手法について検討することとされていることから、引き続き、最新の情報収集に努めてまいります。 農薬の登録及び残留基準に関するご意見は、リスク管理に関するものと考えられることから、農林水産省及び厚生労働省に情報提供いたします。

※頂いたものをそのまま掲載しています。